

【第1部】計画の基本事項 第7期・第7期中間見直し比較

第7期	第7期中間見直し
<p>第1部 計画の基本事項</p> <p>第1章 保健医療圏域</p> <p>人口構成、保健医療需給、保健医療サービスを提供するための資源などは、地域ごとに異なっている。県民に適切な保健医療サービスを効率的に提供するためには、県民の生活行動の実態を踏まえた範囲、適当な広がりを持った圏域を設定することが必要であり、次のとおり保健医療圏域を設定する。</p> <p>1 1次保健医療圏域（省略）</p> <p>2 2次保健医療圏域（医療法第30条の4第2項第12号に規定する圏域）</p> <p>2次保健医療圏域は、入院医療を提供する体制の確保を図るため、一般病床及び療養病床の整備を図るべき地域的単位として区分する区域である。</p> <p>2次保健医療圏域については、平成13年4月に策定した保健医療計画において、医療法施行規則第30条の29（区域の設定に関する標準）の規定を踏まえつつ、住民の生活圏、行政や保健医療団体の区域、中核的な医療機関の分布、患者の受診状況などを総合的に勘案して10の圏域を設定し、現在に至っている。</p> <p>平成28年10月に策定された地域医療構想の構想区域においては、2次保健医療圏域と同一の区域として設定したところであるが、①高度、特殊な救急医療提供については、他の2次保健医療圏域との連携による確保が必要な圏域や②一部の2次保健医療圏域内で、例えば、「在宅医療から救急医療」などは、中核病院等を中心とした一定の区域で医療提供体制を確保していく必要がある圏域があった。</p> <p>また、地域医療構想を推進するなかで、よりきめ細やかな在宅医療圏域の設定が必要であった。</p> <p>については、県独自で実施した患者受診状況など、総合的に考慮し、限られた医療資源を有効に活用するため、現行医療圏域の設定について、検討することとした。</p> <p>(1) 入院患者の受診状況（省略）</p> <p>(2) 圏域設定に関する課題（省略）</p> <p>(3) 2次保健医療圏域の設定</p> <p>① 阪神南、阪神北、中播磨、西播磨圏域（省略）</p> <p>② 神戸、東播磨、北播磨、但馬、淡路圏域（省略）</p> <p>③ 丹波圏域</p> <p>丹波圏域は、他圏域への流出率が高い状況にあるが、当該圏域においては、県立柏原病院と柏原赤十字病院の統合再編により新病院が設置される<u>ところ</u>であり、新病院が圏域において担う医療機能や今後の患者動向等を踏まえる必要があることから、次回計画策定時に、圏域のあり方を検討する。</p> <p>(4) 準保健医療圏域（準圏域）の設定（省略）</p> <p>2次保健医療圏域内において、中核病院等を中心として、一定の医療圏が構成されており、医療資源の地域偏在がさらに進まないよう特に配慮が必要な区域を、「<u>準保健医療圏域（準圏域）</u>」として設定する。</p> <p>① 準圏域の基準（省略）</p> <p>② 保健医療計画（圏域版）における準圏域の設定（省略）</p>	<p>第1部 計画の基本事項</p> <p>第1章 保健医療圏域</p> <p>（同左）</p> <p>1 1次保健医療圏域（省略）</p> <p>2 2次保健医療圏域（医療法第30条の4第2項第14号に規定する圏域）</p> <p>（同左）</p> <p>(1) 入院患者の受診状況（省略）</p> <p>(2) 圏域設定に関する課題（省略）</p> <p>(3) 2次保健医療圏域の設定</p> <p>① 阪神南、阪神北、中播磨、西播磨圏域（省略）</p> <p>② 神戸、東播磨、北播磨、但馬、淡路圏域（省略）</p> <p>③ 丹波圏域</p> <p>丹波圏域は、他圏域への流出率が高い状況にあるが、当該圏域においては、県立柏原病院と柏原赤十字病院の統合再編により、平成30年7月に県立丹波医療センターが設置された<u>ところ</u>であり、新病院が圏域において担う医療機能や今後の患者動向等を踏まえる必要があることから、次回計画策定時に、圏域のあり方を検討する。</p> <p>(4) 準保健医療圏域（準圏域）の設定（省略）</p> <p>2次保健医療圏域内において、中核病院等を中心として、一定の医療圏が構成されており、医療資源の地域偏在がさらに進まないよう特に配慮が必要な区域として、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町の4市1町を「<u>阪神北準圏域</u>」、赤穂市、相生市、上郡町の2市1町を「<u>赤穂準圏域</u>」に設定する。</p> <p>① 準圏域の基準（省略）</p> <p>② 保健医療計画（圏域版）における準圏域の設定（省略）</p>

(5) 疾病・事業ごとの圏域設定

兵庫県では、これまでから疾病・事業ごとの医療提供体制は、2次保健医療圏域にこだわらず、柔軟な圏域設定を行ってきた。

今回計画においても、地域包括ケアシステムの推進などを踏まえ、新たに、「在宅医療圏域」を設定するなど、疾病・事業分野ごとに圏域状況を確認し、柔軟な圏域設定を行う。

① 在宅医療圏域の設定【今回設定】

国計画指針を踏まえ、本県では郡市医師会単位に取組みを推進していることから、住み慣れた地域で、退院支援から日常の療養支援、急変時の対応、看取りまでを、介護と一体的に切れ目なく提供する体制を確保するため、郡市区医師会単位の地域の資源※などに応じて在宅医療圏域（40圏域）を設定する。

※地域包括ケア病床の配置や病院との連携状況等地域の資源を踏まえ設定

② 精神疾患、精神初期救急圏域の設定【今回設定】

国計画指針を踏まえ、精神疾患の医療提供体制について、精神科医療機関の資源などを踏まえ新2次保健医療圏域を基本に8圏域設定するとともに、身近な地域で初期救急が受けられるよう輪番体制等による初期救急医療圏域（7圏域）を設定する。

③ 2次救急地域の地域追加【地域の追加】

入院、手術を必要とする救急患者に対する2次救急医療機関を確保するため、病院群輪番制により対応する地域を2次救急地域として設定しているが、三田市は、三田地域のみで病院群輪番制の対応を行っている現状があることから、阪神北圏域から分割し、新たに三田地域の地域設定を行う。

【疾病・事業ごとの圏域設定状況】

疾病・事業		設定の考え方	今回の設定	圏域数
救急医療	2次救急	入院・手術等を必要とする重症救急患者に対応する2次救急輪番体制毎に設定	現状を踏まえ三田圏域を追加 前回と変更なし	12→13 地域
	3次救急	重篤救急患者を24時間受入れる救命救急センター等を中心に設定		7ブロック
小児救急医療		2次小児救急輪番体制毎に設定		11 圏域
連携圏域		小児地域医療センターを踏まえ設定		8 圏域
周産期医療		周産期医療システムの地域周産期母子医療センターを踏まえ設定		7 圏域
災害医療		地域災害対策本部毎に設定		10 圏域
へき地医療		へき地5法の対象地域を踏まえて設定		4 圏域
がん・糖尿病		身近な医療体制を継続し、現2次保健医療圏域に設定		10 圏域
心疾患・脳卒中		身近な医療体制を継続し、現2次保健医療圏域を基本に阪神北と丹波は連携		9 圏域
精神疾患		医療資源を踏まえ、新2次保健医療圏域で設定		今回設定
初期救急		初期救急輪番体制毎に設定		設定なし→7 圏域
2次救急		2次救急輪番体制毎に設定	前回と変更なし	5 圏域
在宅医療		郡市区医師会単位毎に、在宅医療提供体制を確保できる圏域を設定	今回設定	設定なし→40 圏域

(5) 疾病・事業ごとの圏域設定

(同左)

① 在宅医療圏域の設定

(同左)

② 精神疾患、精神初期救急圏域の設定

(同左)

③ 2次救急地域の地域追加

入院、手術を必要とする救急患者に対する2次救急医療機関を確保するため、病院群輪番制により対応する地域を2次救急地域として設定する。

【疾病・事業ごとの圏域設定状況】

疾病・事業		設定の考え方	圏域数
救急医療	2次救急	入院・手術等を必要とする重症救急患者に対応する2次救急輪番体制毎に設定	13 地域
	3次救急	重篤救急患者を24時間受入れる救命救急センター等を中心に設定	7ブロック
小児救急医療		2次小児救急輪番体制毎に設定	11 圏域
連携圏域		小児地域医療センターを踏まえ設定	8 圏域
周産期医療		周産期医療システムの地域周産期母子医療センターを踏まえ設定	7 圏域
災害医療		地域災害対策本部毎に設定	10 圏域
へき地医療		へき地5法の対象地域を踏まえて設定	4 圏域
がん・糖尿病		身近な医療体制を継続し、現2次保健医療圏域に設定	10 圏域
心疾患・脳卒中		身近な医療体制を継続し、現2次保健医療圏域を基本に阪神北と丹波は連携	9 圏域
精神疾患		医療資源を踏まえ、新2次保健医療圏域で設定	8 圏域
初期救急		初期救急輪番体制毎に設定	7 圏域
2次救急		2次救急輪番体制毎に設定	5 圏域
在宅医療		郡市区医師会単位毎に、在宅医療提供体制を確保できる圏域を設定	40 圏域

< 2次保健医療圏域と構成市町 >

圏域	圏域構成市町	人口(人)	面積(k㎡)
神戸	神戸市	<u>1,535,765</u>	<u>552.02</u>
阪神	阪神南 尼崎市、西宮市、芦屋市	<u>1,035,506</u>	169.15
	阪神北 伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町	<u>721,237</u>	480.89
	小計	<u>1,756,743</u>	650.04
東播磨	明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町	<u>715,422</u>	266.33
北播磨	西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町	<u>271,028</u>	895.61
播磨姫路	中播磨 姫路市、福崎町、市川町、神河町	<u>577,594</u>	<u>865.16</u>
	西播磨 相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、太子町、上郡町、佐用町	<u>257,438</u>	1,566.97
	小計	<u>835,032</u>	<u>2,432.13</u>
但馬	豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町	<u>167,971</u>	2,133.30
丹波	篠山市、丹波市	<u>105,103</u>	870.80
淡路	洲本市、南あわじ市、淡路市	<u>133,512</u>	595.71
兵庫県合計		<u>5,520,576</u>	<u>8,400.93</u>

※ 人口は県統計課「兵庫県推計人口」(平成28年10月1日現在)による。

※ 面積は国土地理院「平成28年全国都道府県市区町村別面積調」(平成28年10月1日現在)による。

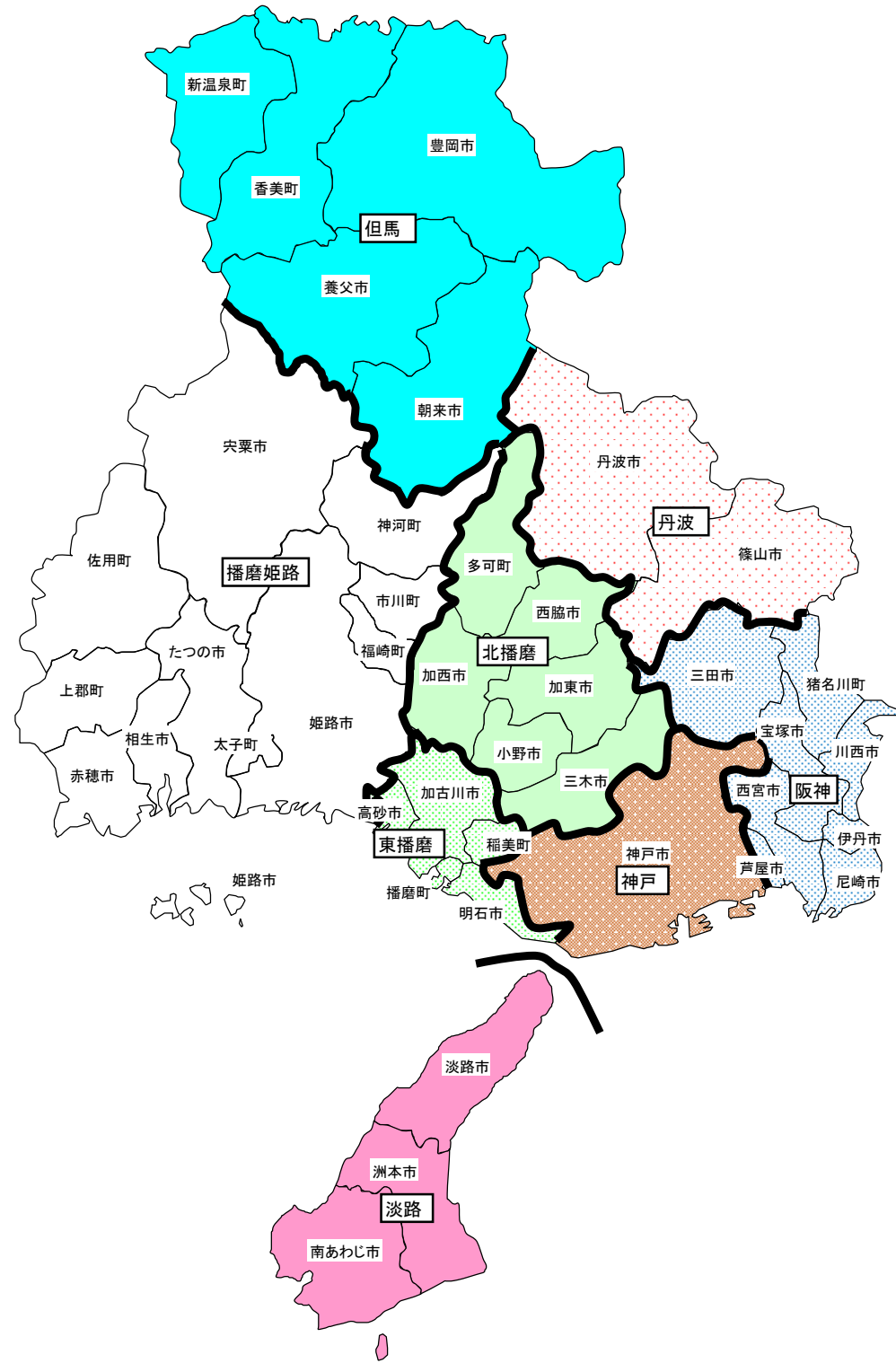
< 2次保健医療圏域と構成市町 >

圏域	圏域構成市町	人口(人)	面積(k㎡)
神戸	神戸市	<u>1,517,486</u>	<u>557.01</u>
阪神	阪神南 尼崎市、西宮市、芦屋市	<u>1,033,457</u>	169.15
	阪神北 伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町	<u>715,215</u>	480.89
	小計	<u>1,748,672</u>	650.04
東播磨	明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町	<u>712,510</u>	266.33
北播磨	西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可町	<u>263,377</u>	895.61
播磨姫路	中播磨 姫路市、福崎町、市川町、神河町	<u>569,981</u>	<u>865.26</u>
	西播磨 相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、太子町、上郡町、佐用町	<u>245,935</u>	1,566.97
	小計	<u>815,916</u>	<u>2,432.23</u>
但馬	豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町	<u>157,380</u>	2,133.30
丹波	篠山市、丹波市	<u>100,502</u>	870.80
淡路	洲本市、南あわじ市、淡路市	<u>126,356</u>	595.71
兵庫県合計		<u>5,442,199</u>	<u>8,401.02</u>

※ 人口は県統計課「兵庫県推計人口」(令和2年9月1日現在)による。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」(令和2年7月1日現在)による。

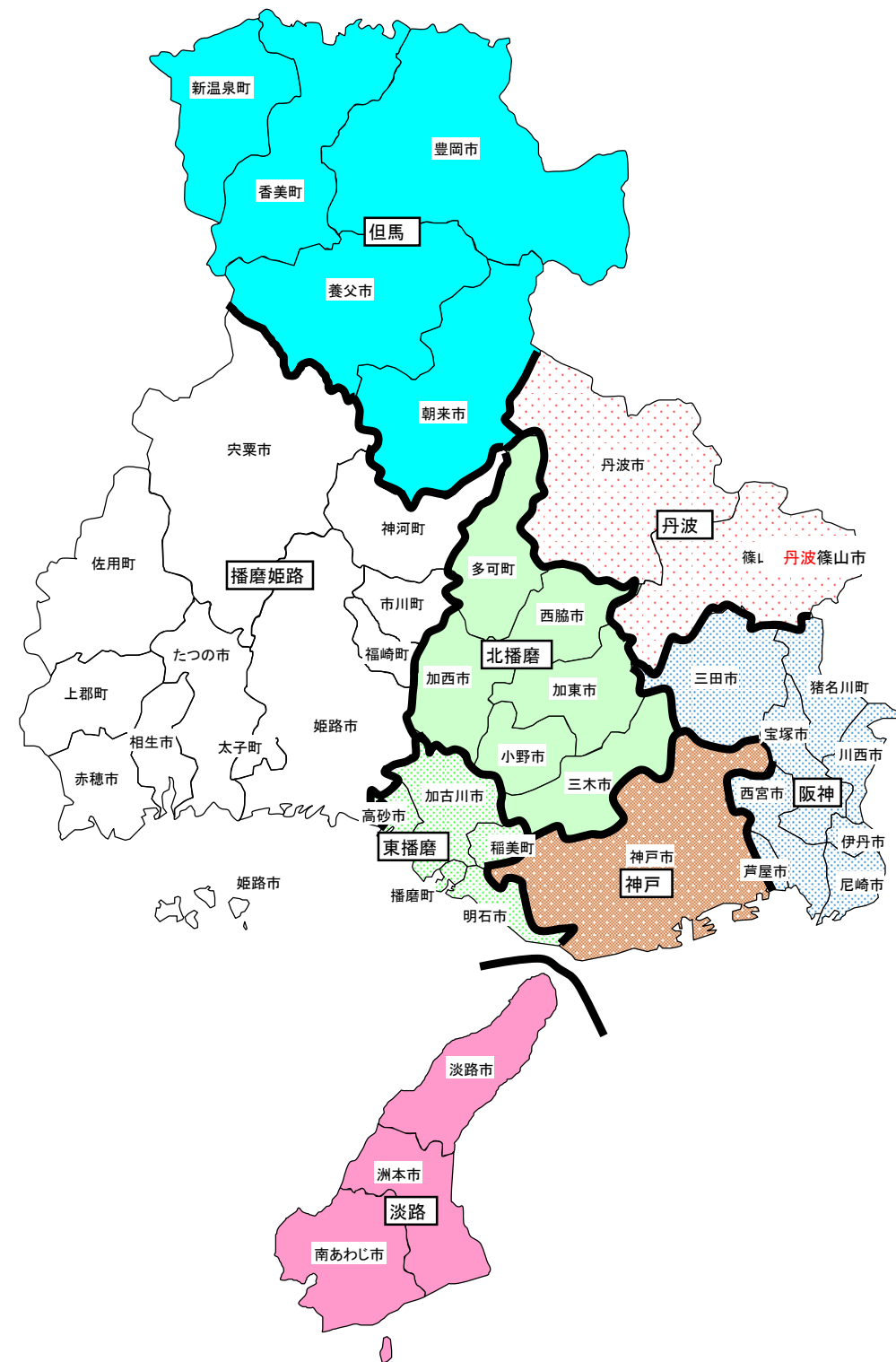
2次保健医療圏域地図



3 3次保健医療圏域 (医療法第30条の4第2項第11号に規定する圏域)

高度、特殊専門的な保健医療サービスの提供を行い、保健医療提供体制の完結を図る圏域として、県全体を3次保健医療圏域とする。

2次保健医療圏域地図



3 3次保健医療圏域 (医療法第30条の4第2項第13号に規定する圏域)

(同左)

第2章 兵庫県の概況

1 人口

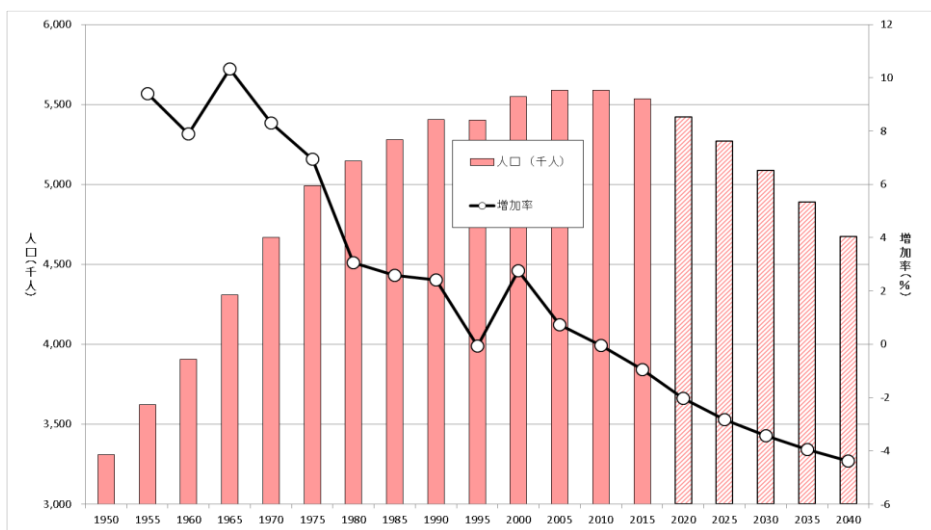
(1) 総人口

兵庫県の総人口は、平成29年10月現在で、5,502,987人であり、平成17年以降減少を続けている。今後の将来推計人口からも人口は減少する見込みである。

表1 兵庫県の人口

年次	人口（人）
昭和25	3,309,935
30	3,620,947
35	3,906,487
40	4,309,944
45	4,667,928
50	4,992,140
55	5,144,892
60	5,278,050
平成2	5,405,040
7	5,401,877
12	5,550,574
17	5,590,601
22	5,588,133
24	5,572,405
26	5,655,361
28	5,621,087
29	5,502,987

図1 兵庫県の人口の推移



資料 平成27（2015）年までは総務省統計局「国勢調査」
2020年以降は、厚生労働省「医療計画策定データベース」より

(2) 性別年齢階級別人口（省略）

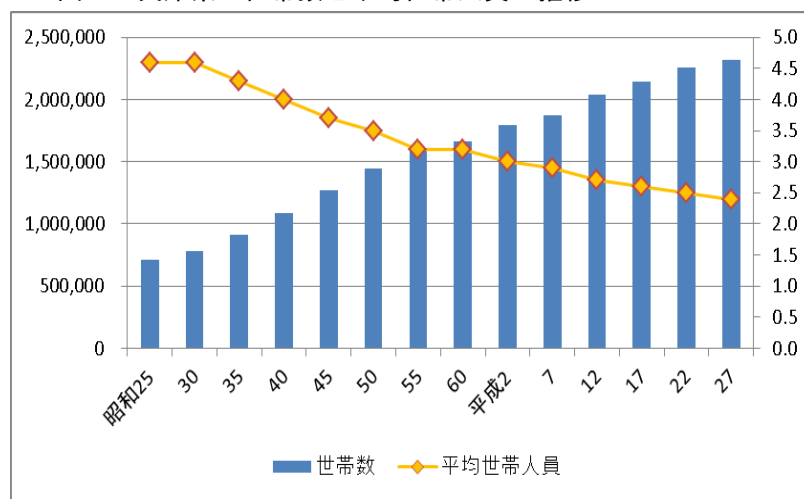
(3) 世帯

兵庫県の世帯数は平成27年10月現在で、2,315,200世帯あり、増加を続けている一方で、1世帯あたりの平均世帯人員は年々減少している。

表3 兵庫県の世帯数と平均世帯人員の推移

年次	世帯数	平均世帯人員
昭和25	713,901	4.6
30	785,747	4.6
35	909,121	4.3
40	1,090,934	4.0
45	1,269,229	3.7
50	1,440,612	3.5
55	1,592,224	3.2
60	1,666,482	3.2
平成2	1,791,672	3.0
7	1,871,922	2.9
12	2,040,709	2.7
17	2,146,488	2.6
22	2,255,318	2.5
27	2,315,200	2.4

図4 兵庫県の世帯数と平均世帯人員の推移



資料 総務省統計局「国勢調査」

(4) 高齢(65歳以上)人口

高齢（65歳以上）人口割合は、最低の三田市21.9%から、最高の佐用町39.3%まで、大きな差がある。地域別に見ると、但馬・播磨西部・淡路地域が高くなっている。

第2章 兵庫県の概況

1 人口

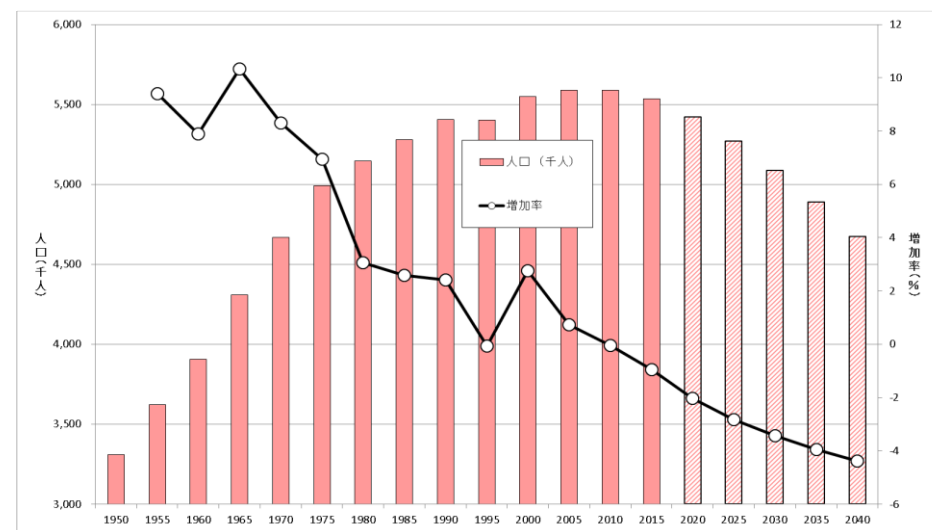
(1) 総人口

兵庫県の総人口は、令和2年9月現在で、5,442,199人であり、平成17年以降減少を続けている。今後の将来推計人口からも人口は減少する見込みである。

表1 兵庫県の人口

年次	人口（人）
昭和25	3,309,935
30	3,620,947
35	3,906,487
40	4,309,944
45	4,667,928
50	4,992,140
55	5,144,892
60	5,278,050
平成2	5,405,040
7	5,401,877
12	5,550,574
17	5,590,601
22	5,588,133
24	5,572,405
26	5,655,361
28	5,621,087
29	5,502,987

図1 兵庫県の人口の推移



資料 平成27（2015）年までは総務省統計局「国勢調査」
令和3（2020）年以降は、厚生労働省「医療計画策定データベース」より

(2) 性別年齢階級別人口（省略）

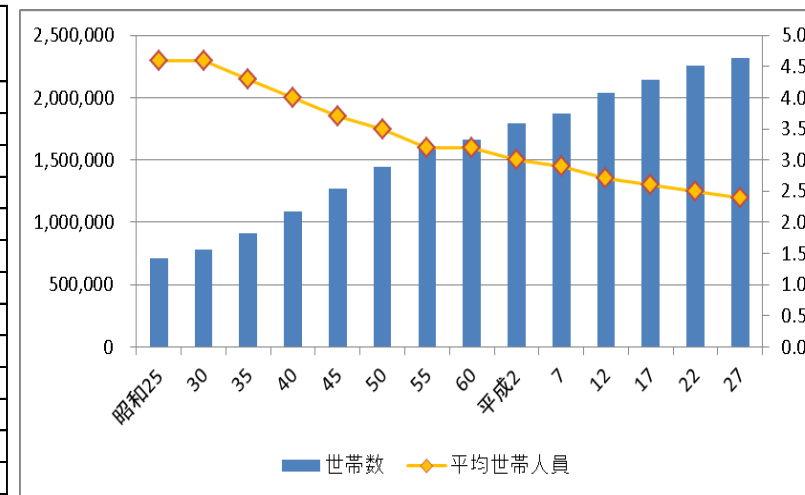
(3) 世帯

（同左）

表3 兵庫県の世帯数と平均世帯人員の推移

年次	世帯数	平均世帯人員
昭和25	713,901	4.6
30	785,747	4.6
35	909,121	4.3
40	1,090,934	4.0
45	1,269,229	3.7
50	1,440,612	3.5
55	1,592,224	3.2
60	1,666,482	3.2
平成2	1,791,672	3.0
7	1,871,922	2.9
12	2,040,709	2.7
17	2,146,488	2.6
22	2,255,318	2.5
27	2,315,200	2.4

図4 兵庫県の世帯数と平均世帯人員の推移

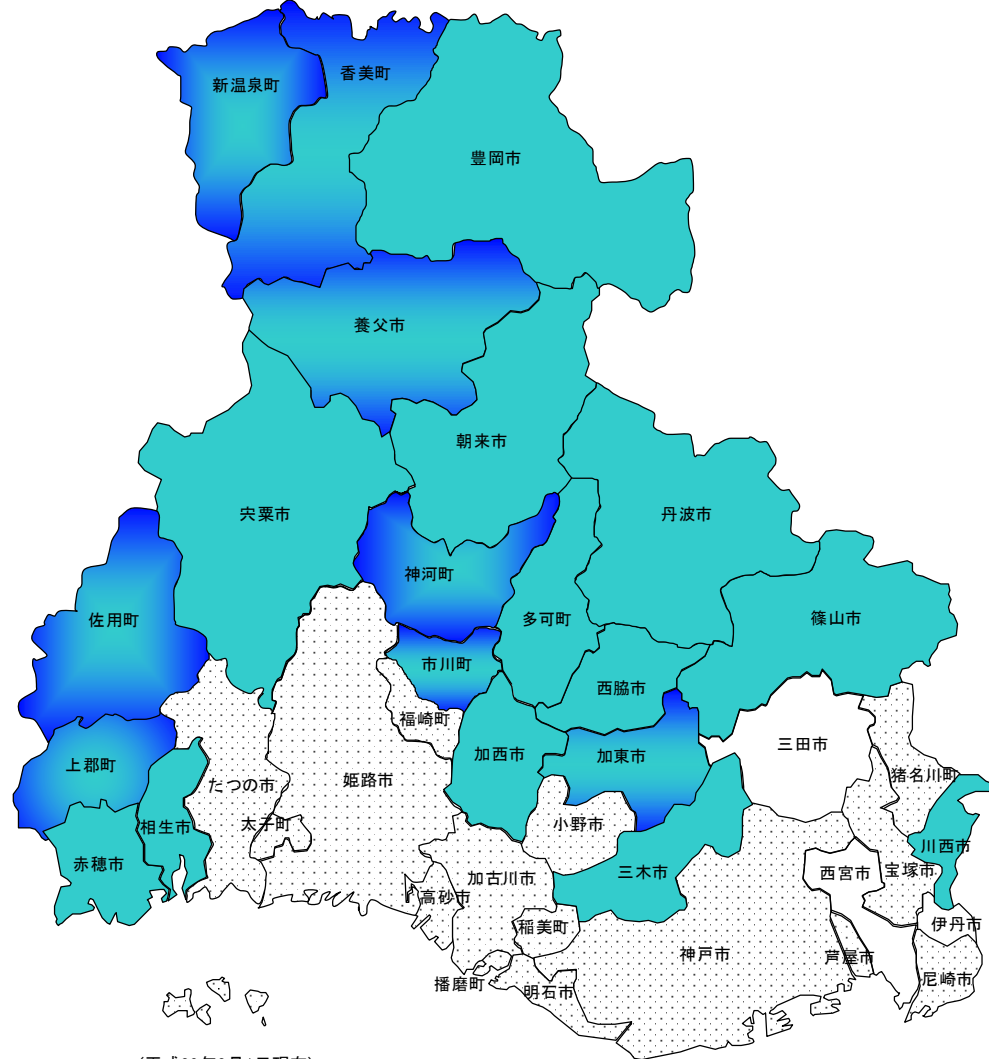


資料 平成27年総務省統計局「国勢調査」

(4) 高齢(65歳以上)人口

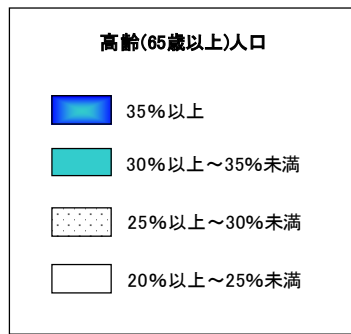
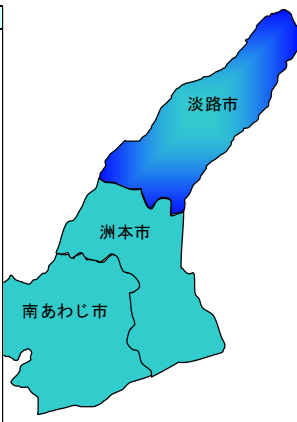
高齢（65歳以上）人口割合は、最低の西宮市23.8%から、最高の佐用町42.3%まで、大きな差がある。地域別に見ると、但馬・播磨西部・淡路地域が高くなっている。

図5 兵庫県の市町別高齢（65歳以上）人口割合



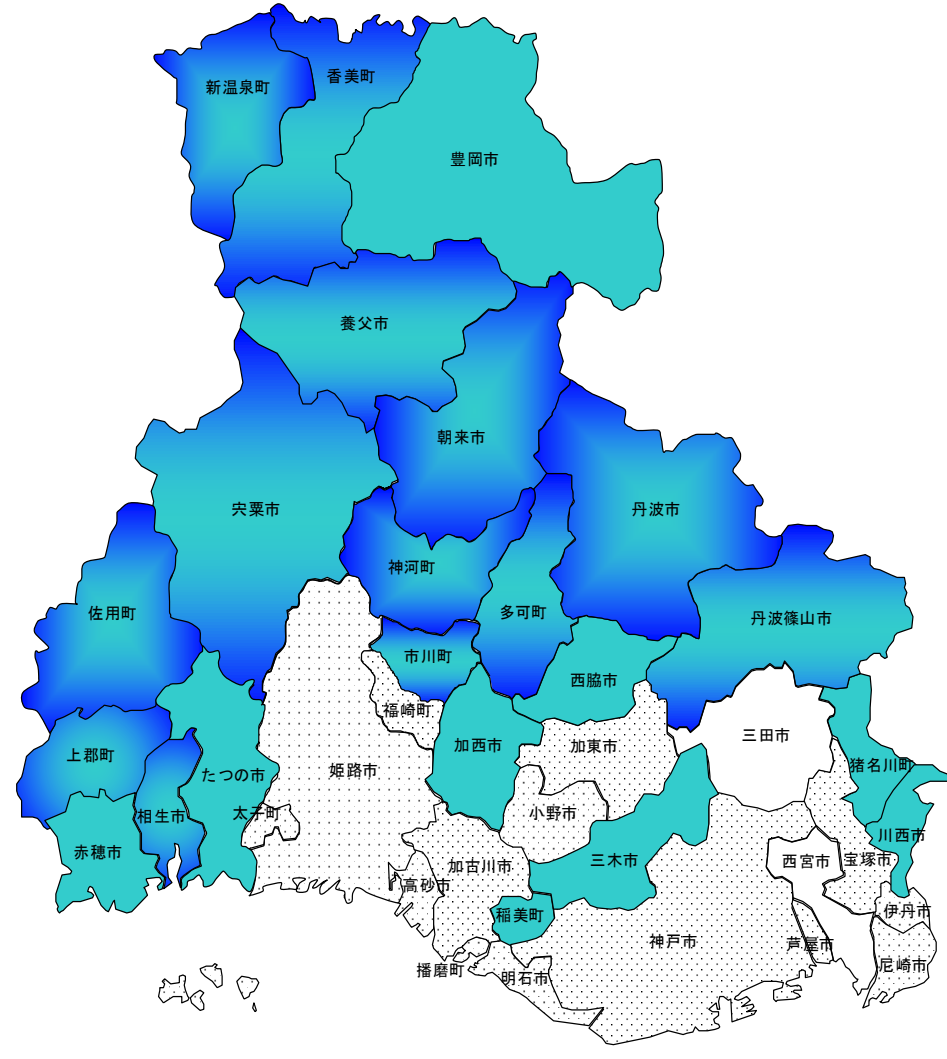
(平成29年2月1日現在)

順位	市町名	高齢化率	順位	市町名	高齢化率
1	佐用町	39.3%	22	川西市	30.9%
2	香美町	39.0%	23	稲美町	29.8%
3	新温泉町	38.4%	24	たつの市	29.2%
4	淡路市	37.4%	25	芦屋市	28.2%
5	上郡町	36.4%	26	高砂市	27.8%
6	養父市	36.1%	27	尼崎市	27.8%
7	市川町	35.6%	28	宝塚市	27.7%
8	神河町	35.6%	29	神戸市	27.1%
9	洲本市	34.9%	30	小野市	27.1%
10	多可町	34.9%	31	福崎町	27.0%
11	相生市	34.6%	32	猪名川町	26.8%
12	宍粟市	34.4%	33	播磨町	26.8%
13	南あわじ市	34.3%	34	加古川市	26.0%
14	朝来市	34.0%	35	明石市	25.9%
15	篠山市	33.6%	36	姫路市	25.8%
16	丹波市	33.3%	37	太子町	25.4%
17	三木市	32.8%	38	加東市	25.0%
18	豊岡市	32.5%	39	伊丹市	24.9%
19	西脇市	32.2%	40	西宮市	22.9%
20	加西市	31.7%	41	三田市	21.9%
21	赤穂市	31.2%		兵庫県	27.5%



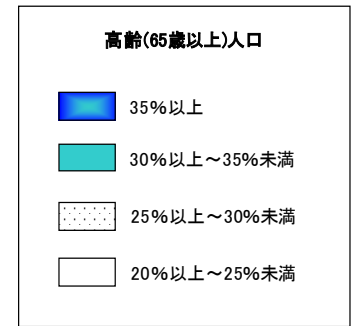
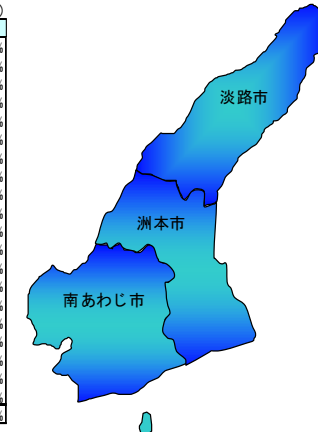
資料 兵庫県情報事務センター「高齢者保健福祉関係資料」
(平成29年2月1日現在)

図5 兵庫県の市町別高齢（65歳以上）人口割合



(平成29令和2年2月1日現在)

順位	市町名	高齢化率	順位	市町名	高齢化率
1	佐用町	42.3%	22	川西市	32.0%
2	香美町	41.5%	23	稲美町	31.6%
3	新温泉町	40.7%	24	たつの市	31.0%
4	上郡町	40.1%	25	猪名川町	30.4%
5	養父市	39.6%	26	高砂市	29.6%
6	淡路市	39.4%	27	芦屋市	29.5%
7	市川町	38.1%	28	宝塚市	28.8%
8	神河町	38.0%	29	小野市	28.8%
9	多可町	37.5%	30	神戸市	28.3%
10	宍粟市	37.3%	31	尼崎市	28.3%
11	洲本市	37.0%	32	福崎町	28.1%
12	南あわじ市	36.3%	33	播磨町	28.0%
13	相生市	35.9%	34	加古川市	27.8%
14	朝来市	35.7%	35	太子町	27.1%
15	丹波篠山市	35.5%	36	姫路市	26.9%
16	丹波市	35.2%	37	明石市	26.4%
17	三木市	34.6%	38	加東市	26.1%
18	豊岡市	34.3%	39	伊丹市	25.8%
19	加西市	33.8%	40	三田市	25.1%
20	西脇市	33.7%	41	西宮市	23.8%
21	赤穂市	33.1%		兵庫県	28.7%



資料 兵庫県情報事務センター「高齢者保健福祉関係資料」
(令和2年2月1日現在)

2 人口動態

(1) 出生

ア 出生率

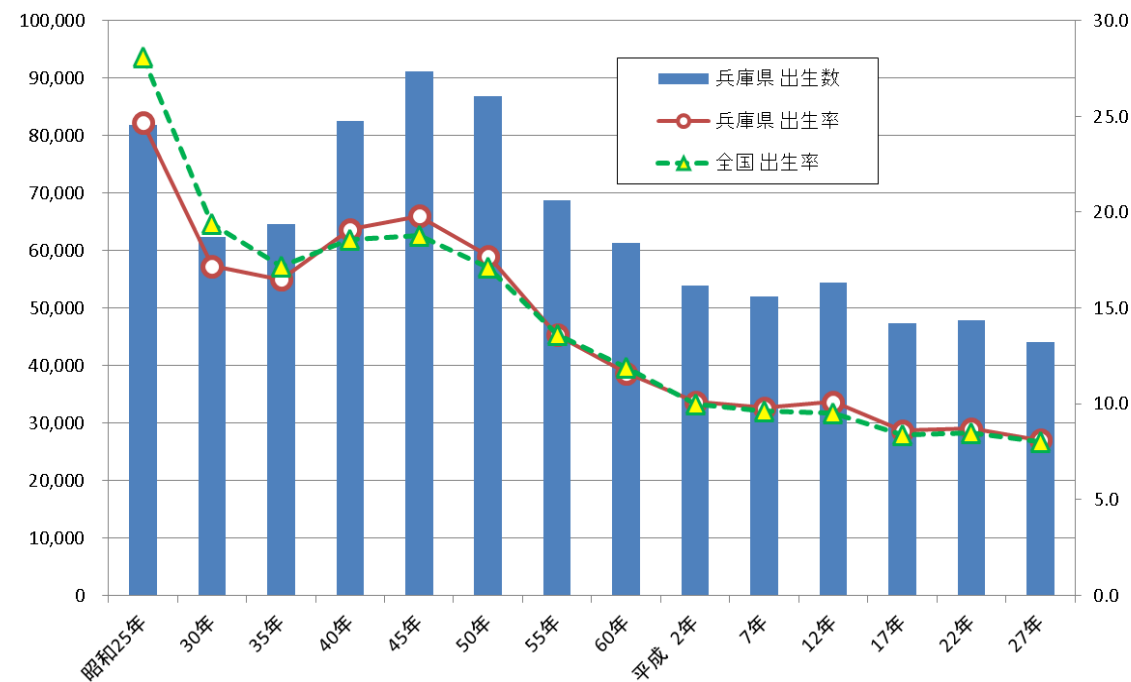
本県の出生率（人口千人対）の推移を見ると、昭和45年（19.8）以降急激に減少し、平成2年には10.1と約半分になったが、それ以降は、ゆるやかな減少傾向となっている。

表4 出生数と出生率の推移

年次	兵庫県		全国	
	出生数	出生率	出生数	出生率
昭和25年	81,866	24.7	2,337,507	28.1
30年	62,404	17.2	1,730,692	19.4
35年	64,642	16.5	1,606,041	17.2
40年	82,500	19.1	1,823,697	18.6
45年	91,169	19.8	1,934,239	18.8
50年	86,839	17.7	1,901,440	17.1
55年	68,677	13.6	1,576,889	13.6
60年	61,332	11.6	1,431,577	11.9
平成 2年	53,916	10.1	1,221,585	10.0
7年	51,947	9.8	1,187,064	9.6
12年	54,455	10.1	1,190,547	9.5
17年	47,273	8.6	1,062,530	8.4
22年	47,834	8.7	1,071,304	8.5
27年	44,015	8.1	1,005,677	8.0

（出生率は人口千人対）

図6 出生数と出生率の推移



資料 厚生労働省「人口動態調査」

イ 合計特殊出生率

本県の合計特殊出生率は年々低下していたが、平成17年からは回復傾向にある。圏域別では、最高は但馬圏域の1.68、最低は神戸圏域の1.37である。

2 人口動態

(1) 出生

ア 出生率

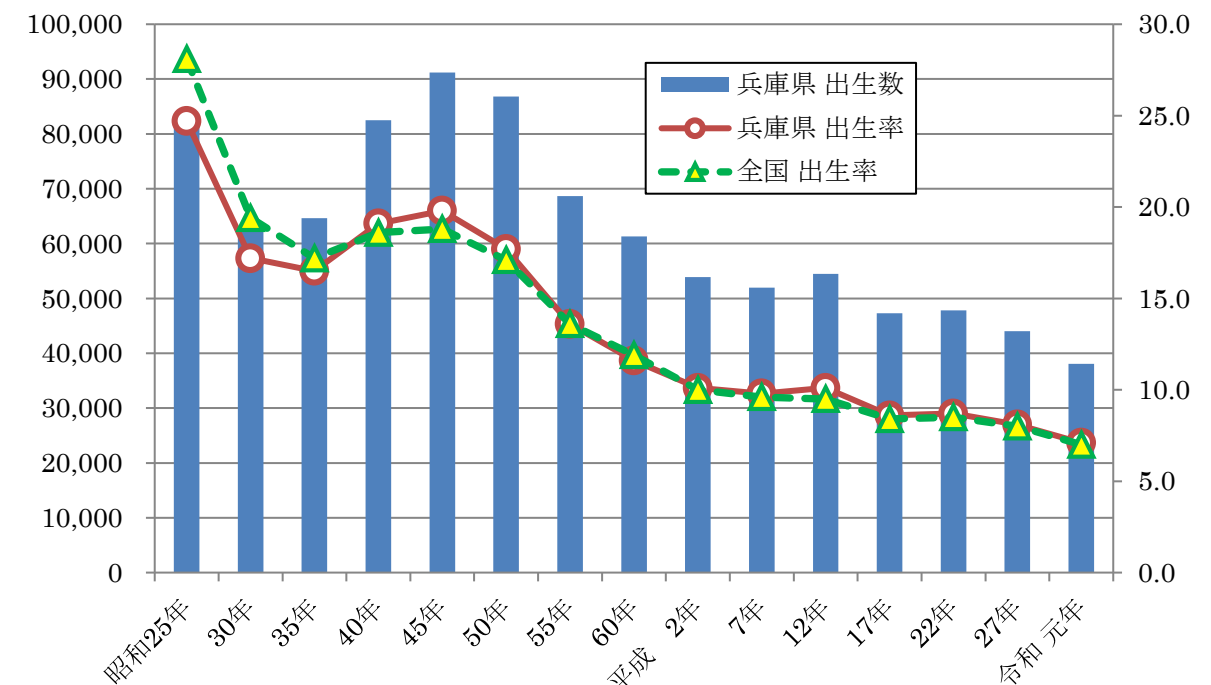
（同左）

表4 出生数と出生率の推移

年次	兵庫県		全国	
	出生数	出生率	出生数	出生率
昭和25年	81,866	24.7	2,337,507	28.1
30年	62,404	17.2	1,730,692	19.4
35年	64,642	16.5	1,606,041	17.2
40年	82,500	19.1	1,823,697	18.6
45年	91,169	19.8	1,934,239	18.8
50年	86,839	17.7	1,901,440	17.1
55年	68,677	13.6	1,576,889	13.6
60年	61,332	11.6	1,431,577	11.9
平成 2年	53,916	10.1	1,221,585	10.0
7年	51,947	9.8	1,187,064	9.6
12年	54,455	10.1	1,190,547	9.5
17年	47,273	8.6	1,062,530	8.4
22年	47,834	8.7	1,071,304	8.5
27年	44,015	8.1	1,005,677	8.0
令和 元年	38,043	7.1	865,239	7.0

（出生率は人口千人対）

図6 出生数と出生率の推移



資料 厚生労働省「令和元年人口動態調査」

イ 合計特殊出生率

（同左）

表5 合計特殊出生率の推移

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	
全国	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45	
兵庫県	1.53	1.41	1.38	1.25	1.41	1.48	
圏域	神戸	1.42	1.25	1.23	1.15	1.29	1.37
	阪神南	1.40	1.29	1.35	1.22	1.41	1.49
	阪神北	1.44	1.35	1.35	1.20	1.39	1.41
	東播磨	1.59	1.46	1.43	1.27	1.48	1.56
	北播磨	1.64	1.51	1.49	1.33	1.37	1.52
	中播磨	1.63	1.50	1.55	1.36	1.54	1.59
	西播磨	1.74	1.60	1.52	1.38	1.48	1.50
	但馬	1.92	1.85	1.84	1.69	1.84	1.68
	丹波	1.92	1.75	1.77	1.41	1.60	1.54
	淡路	1.87	1.65	1.52	1.44	1.58	1.62

資料 総務省統計局「国勢調査」

図7 合計特殊出生率の推移（省略）

図8 圏域別合計特殊出生率（平成27年）（省略）

(2) 死亡

ア 死亡率

本県の死亡率（人口千人対）の年次推移を見ると、昭和50年代前半が最も低く、その後上昇傾向にあり、平成27年には10.3となっている。全国値と比較すると、阪神・淡路大震災の影響で激増した平成7年以外は、ほぼ同じである。

表6 死亡数と死亡率の推移

年次	兵庫県		全国	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和25年	33,340	10.1	904,876	10.9
30年	26,690	7.4	693,523	7.8
35年	29,350	7.5	706,599	7.6
40年	29,489	6.8	700,438	7.1
45年	30,259	6.6	712,962	6.9
50年	30,466	6.2	702,275	6.3
55年	32,275	6.4	722,801	6.2
60年	33,952	6.4	752,283	6.3
平成2年	36,787	6.9	820,305	6.7
7年	47,044	8.8	922,139	7.4
12年	41,724	7.6	961,653	7.7
17年	46,657	8.5	1,083,796	8.6
22年	51,568	9.4	1,197,012	9.5
27年	55,391	10.2	1,290,444	10.3

（死亡率は人口千人対）

表5 合計特殊出生率の推移

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	
全国	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45	
兵庫県	1.53	1.41	1.38	1.25	1.41	1.48	
圏域	神戸	1.42	1.25	1.23	1.15	1.29	1.37
	阪神南	1.40	1.29	1.35	1.22	1.41	1.49
	阪神北	1.44	1.35	1.35	1.20	1.39	1.41
	東播磨	1.59	1.46	1.43	1.27	1.48	1.56
	北播磨	1.64	1.51	1.49	1.33	1.37	1.52
	中播磨	1.63	1.50	1.55	1.36	1.54	1.59
	西播磨	1.74	1.60	1.52	1.38	1.48	1.50
	但馬	1.92	1.85	1.84	1.69	1.84	1.68
	丹波	1.92	1.75	1.77	1.41	1.60	1.54
	淡路	1.87	1.65	1.52	1.44	1.58	1.62

資料 平成27年総務省統計局「国勢調査」

図7 合計特殊出生率の推移（省略）

図8 圏域別合計特殊出生率（平成27年）（省略）

(2) 死亡

ア 死亡率

本県の死亡率（人口千人対）の年次推移を見ると、昭和50年代前半が最も低く、その後上昇傾向にあり、令和元年には10.8となっている。全国値と比較すると、阪神・淡路大震災の影響で激増した平成7年以外は、ほぼ同じである。

表6 死亡数と死亡率の推移

年次	兵庫県		全国	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和25年	33,340	10.1	904,876	10.9
30年	26,690	7.4	693,523	7.8
35年	29,350	7.5	706,599	7.6
40年	29,489	6.8	700,438	7.1
45年	30,259	6.6	712,962	6.9
50年	30,466	6.2	702,275	6.3
55年	32,275	6.4	722,801	6.2
60年	33,952	6.4	752,283	6.3
平成2年	36,787	6.9	820,305	6.7
7年	47,044	8.8	922,139	7.4
12年	41,724	7.6	961,653	7.7
17年	46,657	8.5	1,083,796	8.6
22年	51,568	9.4	1,197,012	9.5
27年	55,391	10.2	1,290,444	10.3
令和元年	57,938	10.8	1,381,093	11.2

（死亡率は人口千人対）

図9 死亡数と死亡率の推移

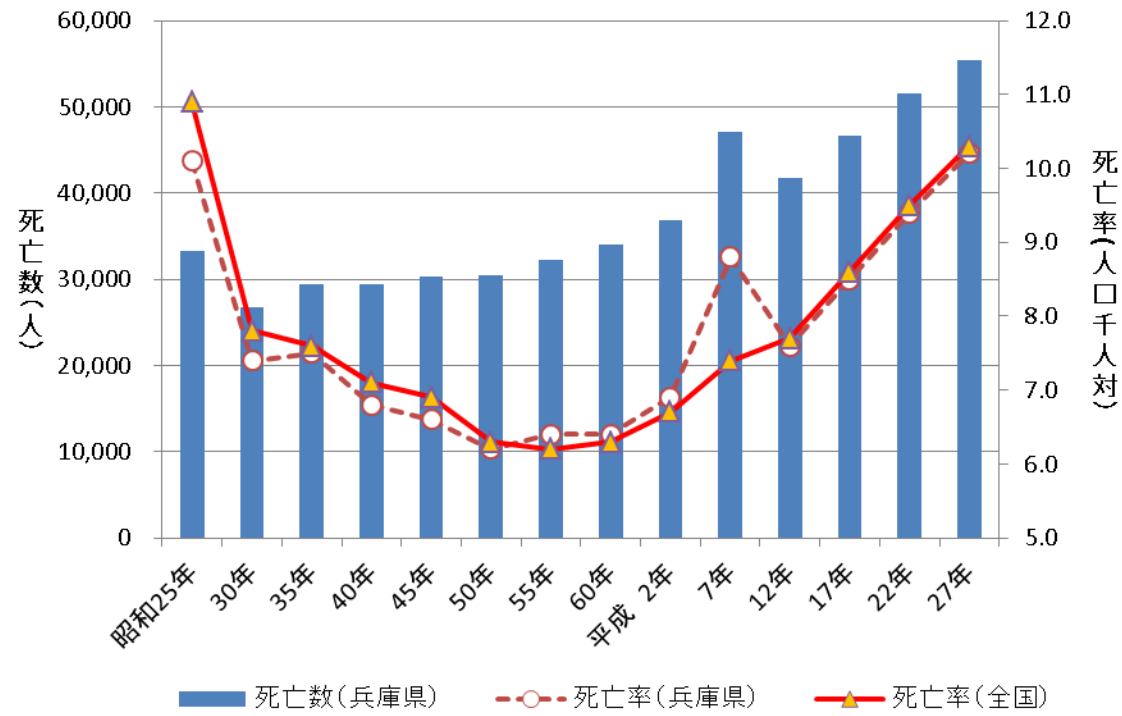
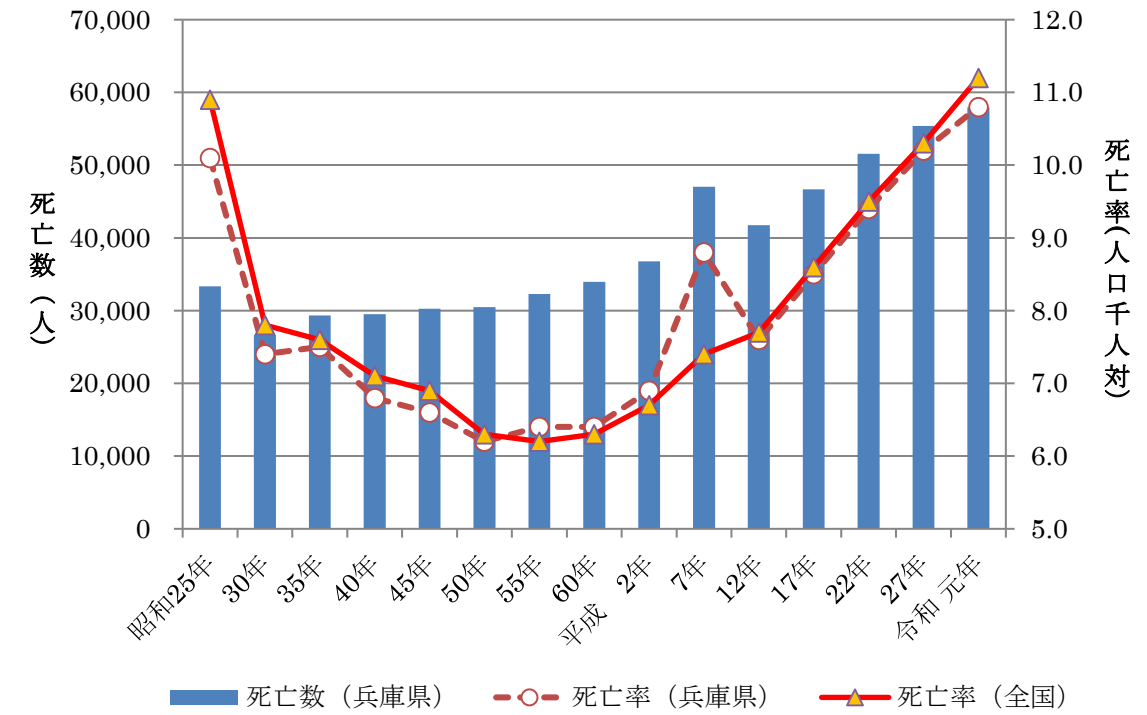


図9 死亡数と死亡率の推移



イ 死因別死亡数

本県の死因別死亡数は、平成 23 年で悪性新生物が 16,022 人、全体の 30.7%である。次いで心疾患 15.1%、肺炎 9.9%、脳血管疾患 8.7%となっており、三大生活習慣病で全体の 5 割以上を占めている。

表7 死因別に見た死亡数(平成27年)

年次	兵庫県			全国		
	死亡数	構成比	死亡率	死亡数	構成比	死亡率
全死因	55,391	100.0%	1,015.2	1,290,444	100.0%	1,029.7
悪性新生物	16,421	29.6%	301.0	370,346	28.7%	295.5
心疾患	8,198	14.8%	150.3	196,113	15.2%	156.5
脳血管疾患	4,586	8.3%	84.1	111,973	8.7%	89.4
肺炎	4,964	9.0%	91.0	120,953	9.4%	96.5
結核	101	0.2%	1.9	1,956	0.2%	1.6
事故	1,700	3.1%	31.2	38,306	3.0%	30.6
自殺	963	1.7%	17.6	23,152	1.8%	18.5
老衰	3,441	6.2%	63.1	84,810	6.6%	67.7
その他	15,017	27.1%	275.0	16,390	1.3%	13.0

(死亡率は人口10万人対)

イ 死因別死亡数

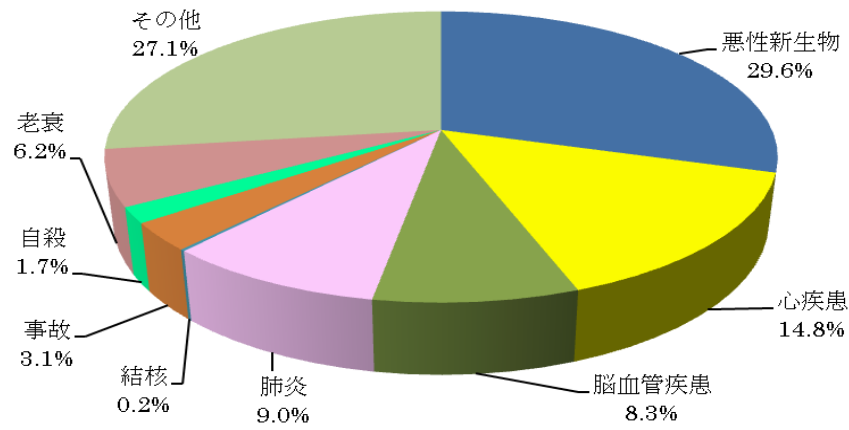
本県の死因別死亡数は、令和元年で悪性新生物が 16,494 人、全体の 28.5%である。次いで心疾患 15.0%、脳血管疾患 7.2%、肺炎 6.4%となっており、三大生活習慣病で全体の 5 割以上を占めている。

表7 死因別に見た死亡数(令和元年)

年次	兵庫県			全国		
	死亡数	構成比	死亡率	死亡数	構成比	死亡率
全死因	57,938	100.0%	1,079.1	1,381,093	100.0%	1,116.2
悪性新生物	16,494	28.5%	307.2	376,425	27.3%	304.2
心疾患	8,677	15.0%	161.6	207,714	15.0%	167.9
脳血管疾患	4,193	7.2%	78.1	106,552	7.7%	86.1
肺炎	3,699	6.4%	68.9	95,518	6.9%	77.2
結核	107	0.2%	2.0	2,087	0.2%	1.7
事故	1,759	3.0%	32.8	39,184	2.8%	31.7
自殺	853	1.5%	15.9	19,425	1.4%	15.7
老衰	4,738	8.2%	88.2	121,863	8.8%	98.5
その他	17,418	30.1%	324.4	412,325	29.9%	333.2

(死亡率は人口10万人対)

図10 兵庫県の死因別死亡割合（平成27年）



ウ 死因別死亡率

死亡の中で5割以上を占める三大生活習慣病の死亡率を見てみると、悪性新生物及び心疾患は増加傾向にあるのに対し、脳血管疾患は横ばいである。

表8 兵庫県の死因別死亡率(人口10万人対)の推移

年次	全死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
昭和50年	619.5	122.7	85.0	134.5
55年	637.5	149.7	107.3	127.5
60年	643.5	161.8	122.1	98.5
平成 2年	690.7	187.4	139.9	90.3
7年	884.5	224.3	120.1	110.5
12年	763.1	245.1	115.3	89.9
17年	847.6	267.9	128.5	90.6
22年	936.2	287.9	144.7	85.3
27年	1015.2	301.0	150.3	84.1

資料 厚生労働省「平成27年人口動態調査」

図11 兵庫県の生活習慣病の死亡率(人口10万対)

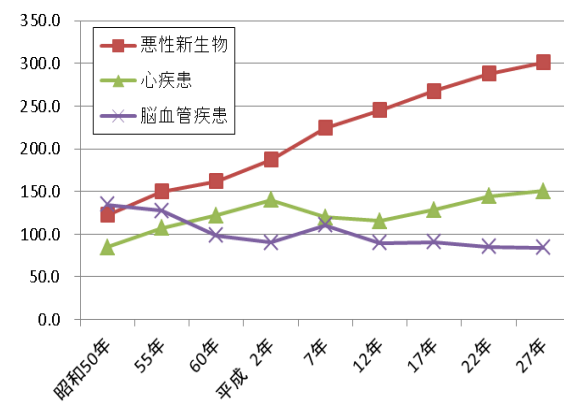
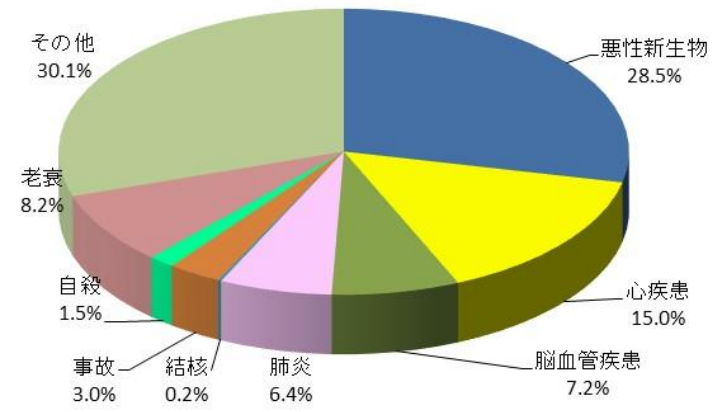


図10 兵庫県の死因別死亡割合（令和元年）



ウ 死因別死亡率

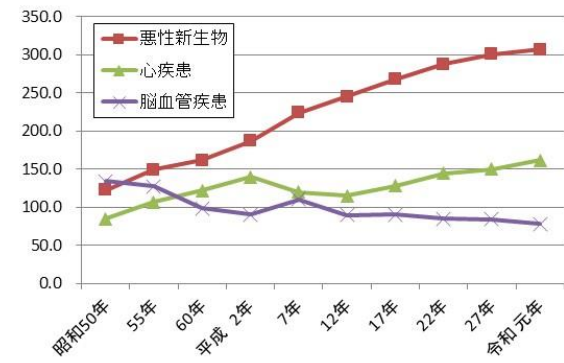
(同左)

表8 兵庫県の死因別死亡率(人口10万人対)の推移

年次	全死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
昭和50年	619.5	122.7	85.0	134.5
55年	637.5	149.7	107.3	127.5
60年	643.5	161.8	122.1	98.5
平成 2年	690.7	187.4	139.9	90.3
7年	884.5	224.3	120.1	110.5
12年	763.1	245.1	115.3	89.9
17年	847.6	267.9	128.5	90.6
22年	936.2	287.9	144.7	85.3
27年	1,015.2	301.0	150.3	84.1
令和 元年	1,079.1	307.2	161.6	78.1

資料 厚生労働省「令和2年人口動態調査」

図11 兵庫県の生活習慣病の死亡率(人口10万対)



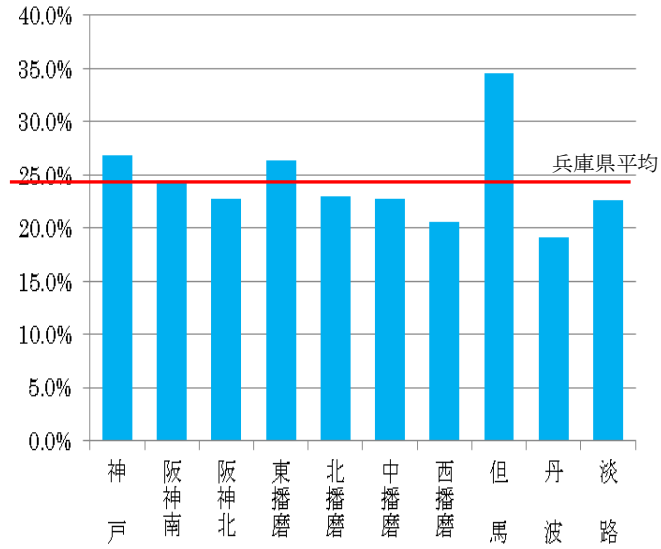
オ 在宅死亡割合

表9 医療圏域別に見た在宅死亡数・割合

	全死亡者数	在宅死亡者数	在宅死亡割合	
全県	55,391	13,797	24.9%	
2次保健医療圏域	神戸	15,168	4,075	26.9%
	阪神南	9,424	2,299	24.4%
	阪神北	6,183	1,406	22.7%
	東播磨	6,576	1,733	26.4%
	北播磨	2,969	684	23.0%
	中播磨	5,743	1,305	22.7%
	西播磨	3,230	666	20.6%
	但馬	2,522	871	34.5%
	丹波	1,435	275	19.2%
	淡路	2,141	483	22.6%

資料 厚生労働省「平成27年人口動態調査」

図12 圏域別在宅死亡割合



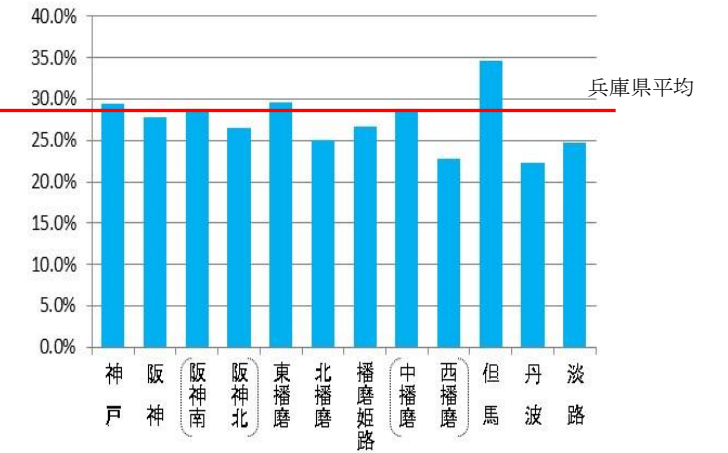
オ 在宅死亡割合

表9 医療圏域別に見た在宅死亡数・割合

	全死亡者数	在宅死亡者数	在宅死亡割合		
全県	57,938	16,314	28.2%		
2次保健医療圏域	神戸	15,769	4,642	29.4%	
	阪神	阪神南	9,942	2,843	28.6%
		阪神北	6,653	1,759	26.4%
	小計	16,595	4,602	27.7%	
	東播磨	東播磨	7,159	2,121	29.6%
		北播磨	3,168	795	25.1%
	播磨姫路	中播磨	6,060	1,734	28.6%
		西播磨	3,244	741	22.8%
	小計	9,304	2,475	26.6%	
	但馬	2,479	858	34.6%	
丹波	1,478	330	22.3%		
淡路	1,986	491	24.7%		

資料 厚生労働省「令和元年人口動態調査」

図12 圏域別在宅死亡割合



カ 平均寿命

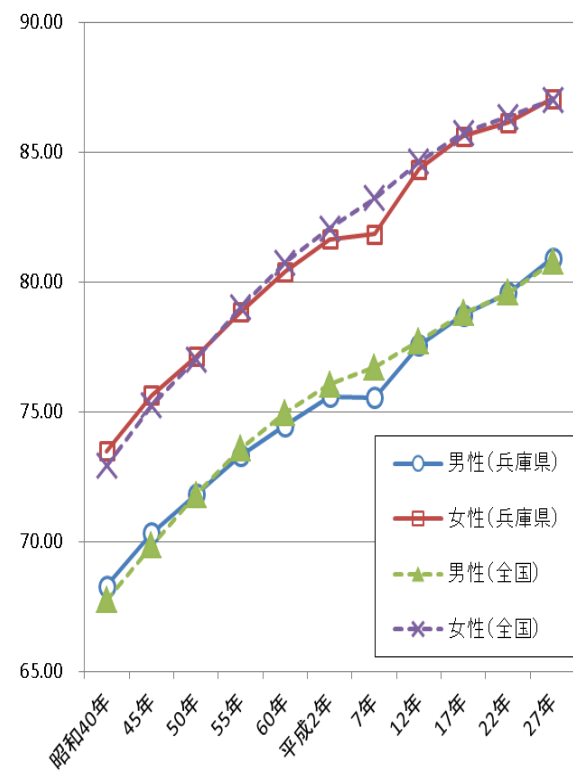
本県と全国の平均寿命を男女別に比較すると、いずれも昭和55年以降は本県の平均寿命が全国値よりも低かったが、平成27年は全国値よりも高くなっている。

表10 平均寿命の推移

	兵庫県		全国	
	男	女	男	女
昭和40年	68.29	73.48	67.74	72.92
45年	70.32	75.63	69.84	75.23
50年	71.82	77.13	71.79	77.01
55年	73.31	78.84	73.57	79.00
60年	74.47	80.40	74.95	80.75
平成2年	75.59	81.64	76.04	82.07
7年	75.54	81.83	76.70	83.22
12年	77.57	84.34	77.71	84.62
17年	78.72	85.62	78.79	85.75
22年	79.59	86.14	79.59	86.35
27年	80.92	87.07	80.77	87.01

資料 厚生労働省「都道府県別生命表」

図13 平均寿命の推移



カ 平均寿命

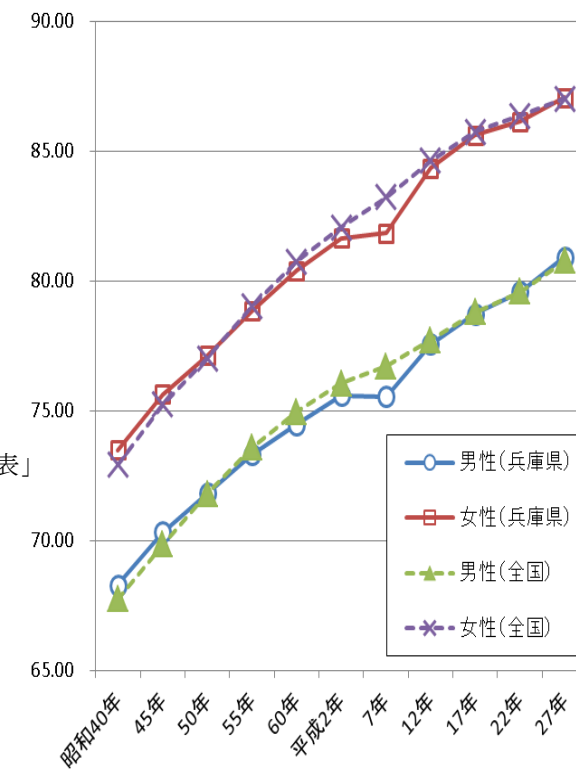
(同左)

表10 平均寿命の推移

	兵庫県		全国	
	男	女	男	女
昭和40年	68.29	73.48	67.74	72.92
45年	70.32	75.63	69.84	75.23
50年	71.82	77.13	71.79	77.01
55年	73.31	78.84	73.57	79.00
60年	74.47	80.40	74.95	80.75
平成2年	75.59	81.64	76.04	82.07
7年	75.54	81.83	76.70	83.22
12年	77.57	84.34	77.71	84.62
17年	78.72	85.62	78.79	85.75
22年	79.59	86.14	79.59	86.35
27年	80.92	87.07	80.77	87.01

資料 厚生労働省「平成27年都道府県別生命表」

図13 平均寿命の推移



3 受療動向

(1) 推計患者数

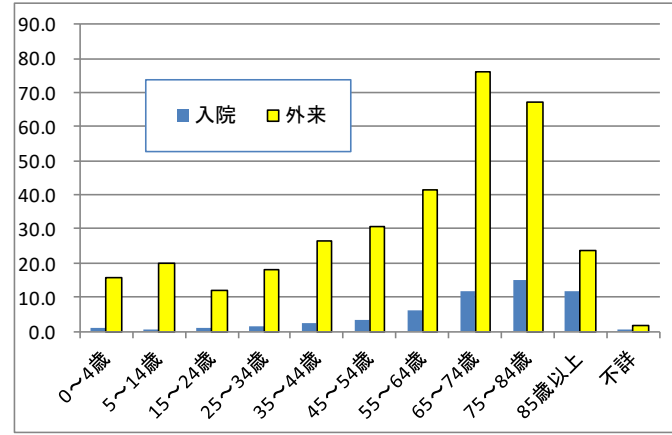
本県の推計患者数を年齢階級別に見ると、入院・外来とも55歳以降に急激に増加し、入院は75～84歳、外来は65～74歳の年齢層が、それぞれ最も多くなっている。

表11 兵庫県の年齢階級別推計患者数

	入院	外来
0～4歳	1.0	15.9
5～14歳	0.5	19.9
15～24歳	0.8	12.1
25～34歳	1.4	17.9
35～44歳	2.3	26.5
45～54歳	3.4	30.8
55～64歳	6.1	41.6
65～74歳	11.6	76.3
75～84歳	14.8	67.1
85歳以上	11.6	23.6
不詳	0.1	1.6
合計	53.6	333.3

(単位:千人)

図14 兵庫県の年齢階級別推計患者数



資料 厚生労働省「平成27年患者調査」

(2) 年齢階級別受療率

本県の年齢階級別の受療率を見ると、入院は5～14歳、外来は15～24歳が最も低く、その後、年齢が上がるにつれて高くなっている。全国値のデータと比較してみると、入院は0～14歳の年齢層を除いて全国値より低く、一方、外来は65歳以上の年齢層で全国値より特に高くなっている。

表12 年齢階級別受療率(人口10万人対)

年齢	入院		外来	
	兵庫県	全国	兵庫県	全国
0～4歳	414	345	6,789	6,762
5～14歳	104	92	3,996	3,503
15～24歳	140	141	2,242	2,091
25～34歳	242	270	3,081	2,911
35～44歳	291	318	3,300	3,334
45～54歳	473	505	4,284	4,225
55～64歳	862	930	5,879	5,984
65～74歳	1,499	1,568	9,854	9,455
75歳以上	3,854	4,205	13,228	11,906
総数	967	1,038	6,015	5,696

資料 厚生労働省「平成26年患者調査」

図15 年齢階級別受療率(人口10万対)入院

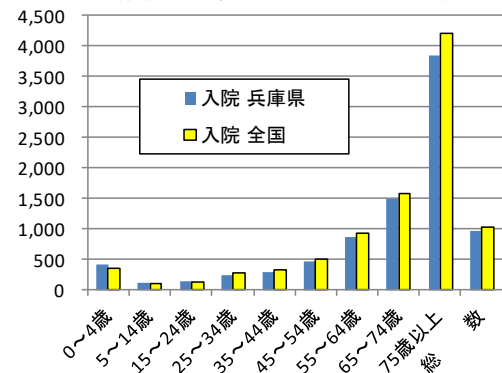
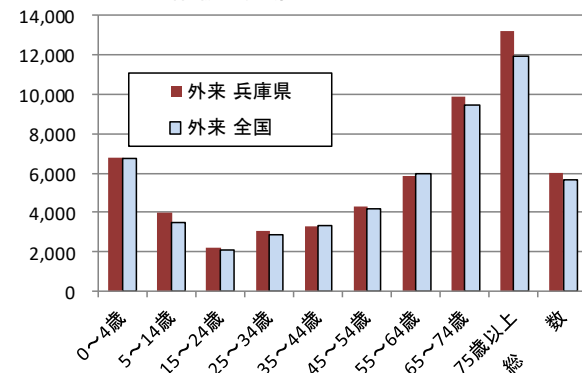


図16 年齢階級別受療率(人口10万対)外来



3 受療動向

(1) 推計患者数

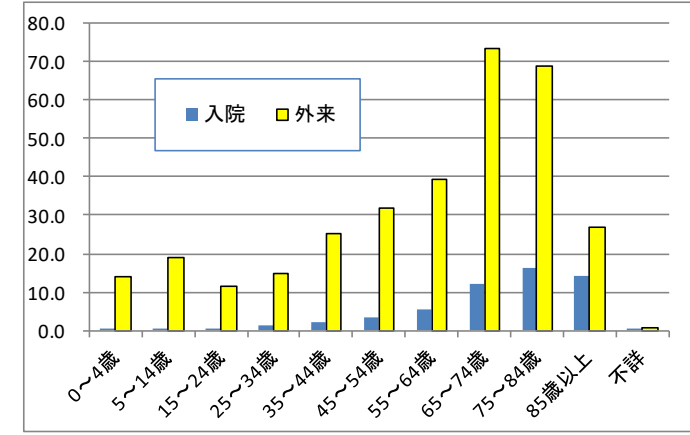
(同左)

表11 兵庫県の年齢階級別推計患者数

	入院	外来
0～4歳	0.6	13.8
5～14歳	0.3	18.9
15～24歳	0.5	11.5
25～34歳	1.4	14.9
35～44歳	2.0	25.1
45～54歳	3.5	32.0
55～64歳	5.5	39.4
65～74歳	12.0	73.6
75～84歳	16.3	69.0
85歳以上	14.3	26.8
不詳	0.1	0.7
合計	56.5	325.7

(単位:千人)

図14 兵庫県の年齢階級別推計患者数



資料 厚生労働省「平成29年患者調査」

(2) 年齢階級別受療率

(同左)

表12 年齢階級別受療率(人口10万人対)

年齢	入院		外来	
	兵庫県	全国	兵庫県	全国
0～4歳	299	365	6,409	6,666
5～14歳	64	90	3,945	3,557
15～24歳	97	136	2,155	2,018
25～34歳	261	264	2,765	2,938
35～44歳	269	304	3,409	3,290
45～54歳	449	469	4,110	4,106
55～64歳	837	879	5,955	5,763
65～74歳	1,516	1,484	9,293	8,854
75歳以上	3,993	3,997	12,503	11,899
総数	1,028	1,036	5,918	5,675

資料 厚生労働省「平成29年患者調査」

図15 年齢階級別受療率(人口10万対)入院

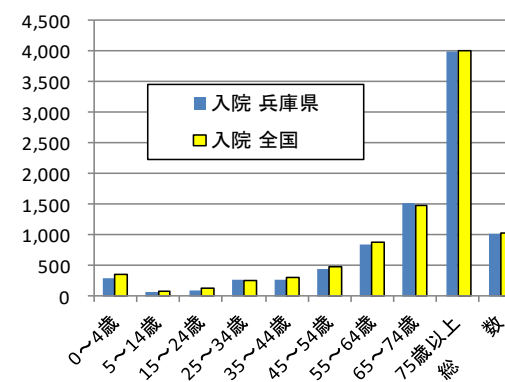
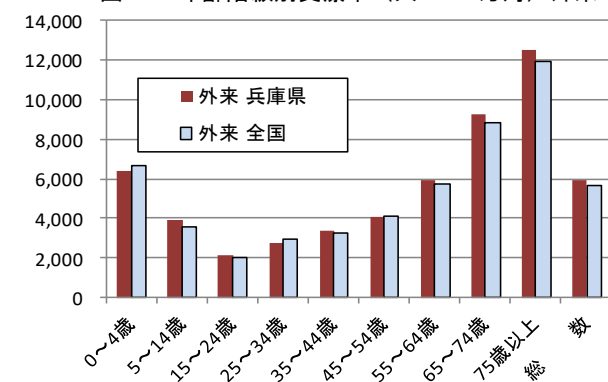


図16 年齢階級別受療率(人口10万対)外来



(3) 傷病分類別患者数

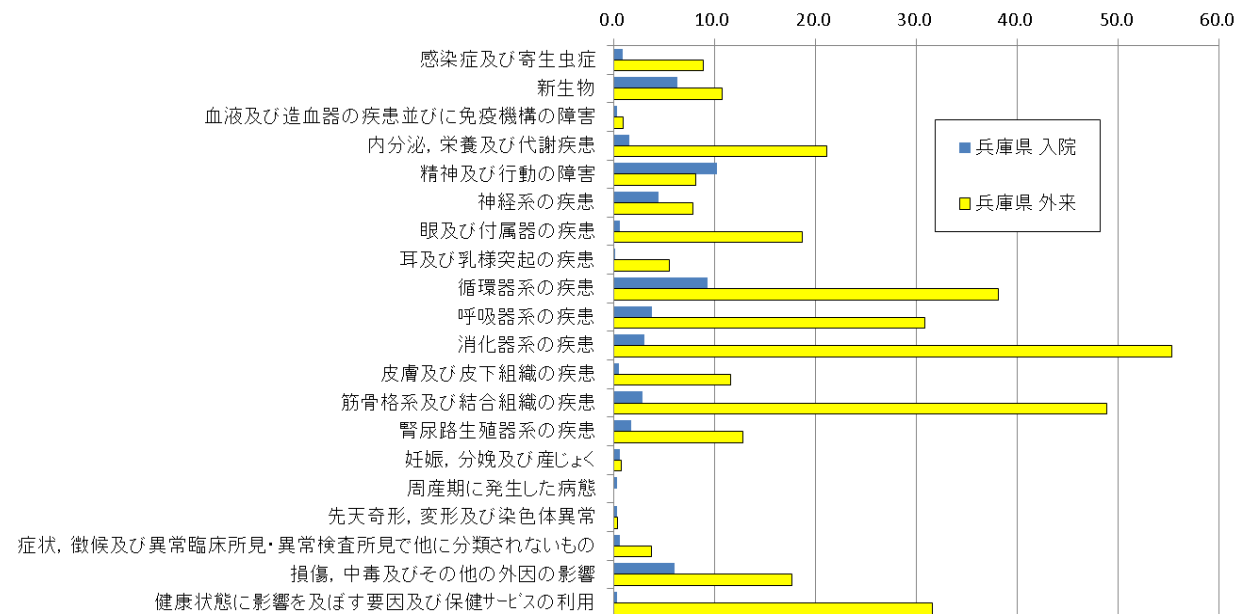
入院及び外来の患者を傷病別にみると、入院では、精神及び行動の障害・循環器系の疾患・新生物が多く、外来では、消化器系の疾患・筋骨格系及び結合組織の疾患・循環器系の疾患が多い。

表13 兵庫県の傷病分類別推計患者数 (単位:千人)

傷病分類	兵庫県	
	入院	外来
感染症及び寄生虫症	0.9	8.9
新生物	6.3	10.7
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.3	0.9
内分泌, 栄養及び代謝疾患	1.5	21.1
精神及び行動の障害	10.2	8.1
神経系の疾患	4.4	7.8
眼及び付属器の疾患	0.6	18.7
耳及び乳様突起の疾患	0.1	5.5
循環器系の疾患	9.3	38.1
呼吸器系の疾患	3.8	30.8
消化器系の疾患	3.0	55.3
皮膚及び皮下組織の疾患	0.5	11.6
筋骨格系及び結合組織の疾患	2.8	48.8
腎尿路生殖器系の疾患	1.7	12.8
妊娠, 分娩及び産じょく	0.6	0.7
周産期に発生した病態	0.3	0.0
先天奇形, 変形及び染色体異常	0.3	0.4
症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.6	3.7
損傷, 中毒及びその他の外因の影響	6.0	17.6
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0.3	31.6
総数	53.6	333.3

資料 厚生労働省「平成26年 患者調査」

図17 傷病分類別推計患者数 (千人)



(3) 傷病分類別患者数

(同左)

表13 兵庫県の傷病分類別推計患者数 (単位:千人)

傷病分類	兵庫県	
	入院	外来
感染症及び寄生虫症	1.1	6.8
新生物	6.2	14.2
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.3	0.6
内分泌, 栄養及び代謝疾患	1.6	24.0
精神及び行動の障害	9.8	8.9
神経系の疾患	5.0	7.0
眼及び付属器の疾患	0.8	17.6
耳及び乳様突起の疾患	0.1	7.3
循環器系の疾患	9.4	40.4
呼吸器系の疾患	4.4	27.1
消化器系の疾患	2.8	52.7
皮膚及び皮下組織の疾患	0.7	13.2
筋骨格系及び結合組織の疾患	3.4	39.7
腎尿路生殖器系の疾患	2.1	16.0
妊娠, 分娩及び産じょく	0.6	0.4
周産期に発生した病態	0.2	0.1
先天奇形, 変形及び染色体異常	0.2	0.7
症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.6	3.2
損傷, 中毒及びその他の外因の影響	6.8	14.1
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0.5	31.8
総数	56.5	325.7

資料 厚生労働省「平成29年 患者調査」

図17 傷病分類別推計患者数 (千人)

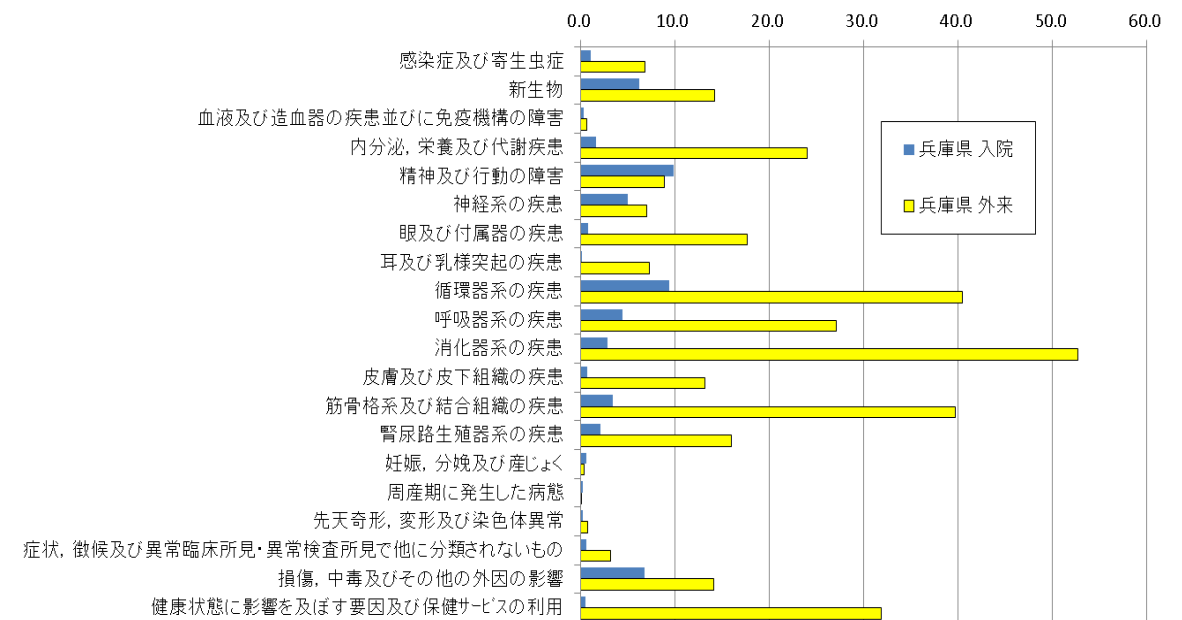


表14 傷病分類別受療率(人口10万人対)

傷病分類	兵庫県		全国	
	入院	外来	入院	外来
感染症及び寄生虫症	17	161	16	136
新生物	114	194	114	182
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5	16	5	17
内分泌, 栄養及び代謝疾患	27	381	26	344
精神及び行動の障害	184	147	209	203
神経系の疾患	80	140	96	136
眼及び付属器の疾患	10	338	9	266
耳及び乳様突起の疾患	2	100	2	79
循環器系の疾患	167	687	189	734
呼吸器系の疾患	68	556	71	526
消化器系の疾患	54	999	52	1,031
皮膚及び皮下組織の疾患	9	210	9	226
筋骨格系及び結合組織の疾患	50	881	55	691
尿路器系の疾患	31	230	37	223
妊娠, 分娩及び産じょく	11	13	15	11
周産期に発生した病態	6	1	5	2
先天奇形, 変形及び染色体異常	6	8	5	11
症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	11	67	13	61
損傷, 中毒及びその他の外因の影響	108	318	103	241
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	6	570	8	576
総数	967	6,015	1,038	5,696

資料 厚生労働省「平成26年 患者調査」

図18 傷病分類別受療率(人口10万対) 入院

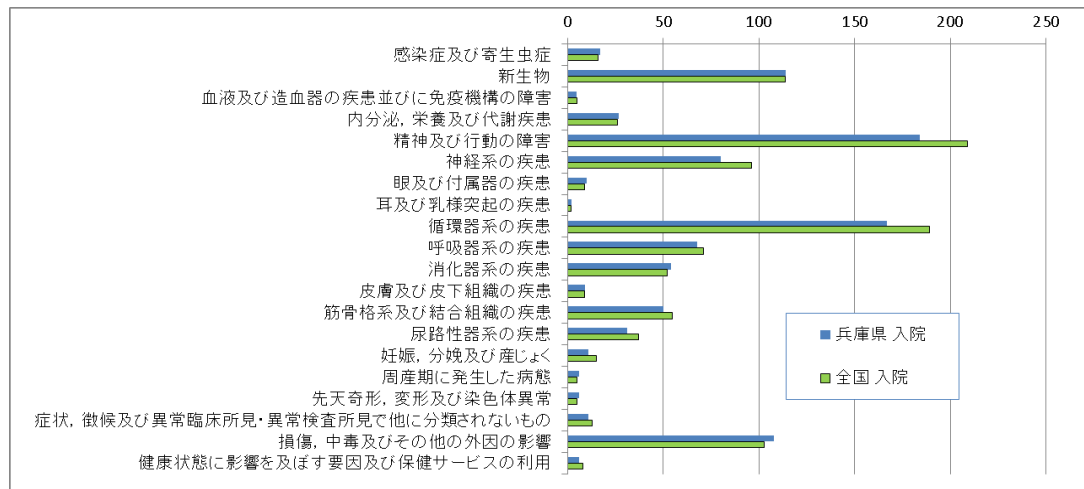
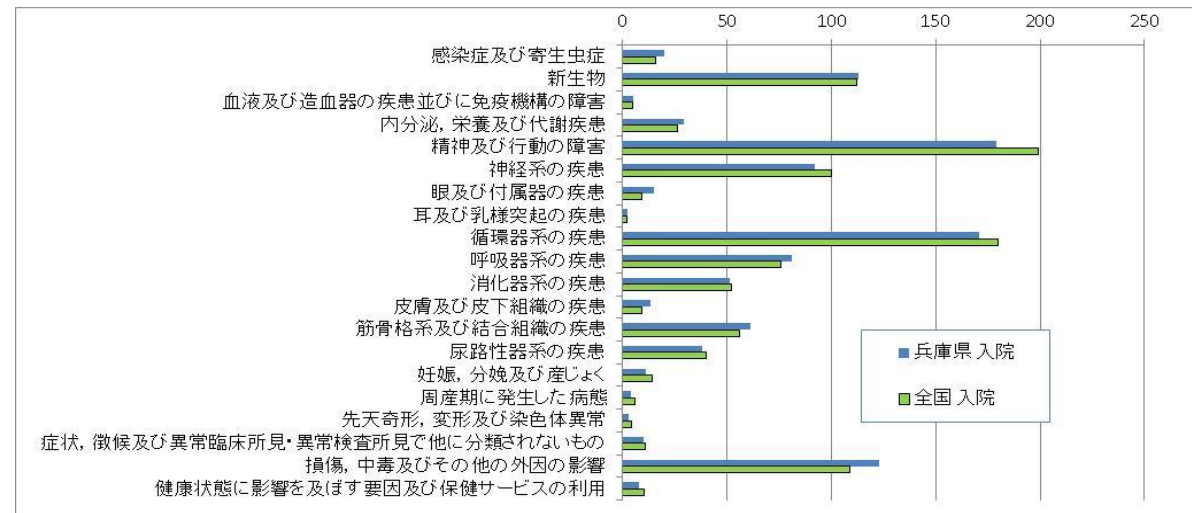


表14 傷病分類別受療率(人口10万人対)

傷病分類	兵庫県		全国	
	入院	外来	入院	外来
感染症及び寄生虫症	20	124	16	134
新生物	113	258	112	197
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5	12	5	17
内分泌, 栄養及び代謝疾患	29	436	26	350
精神及び行動の障害	179	162	199	206
神経系の疾患	92	128	100	130
眼及び付属器の疾患	15	320	9	283
耳及び乳様突起の疾患	2	132	2	78
循環器系の疾患	171	733	180	702
呼吸器系の疾患	81	492	76	497
消化器系の疾患	51	958	52	1,021
皮膚及び皮下組織の疾患	13	239	9	240
筋骨格系及び結合組織の疾患	61	721	56	692
尿路器系の疾患	38	290	40	254
妊娠, 分娩及び産じょく	11	8	14	12
周産期に発生した病態	4	1	6	2
先天奇形, 変形及び染色体異常	3	12	4	11
症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	10	58	11	62
損傷, 中毒及びその他の外因の影響	123	255	109	236
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	8	578	10	553
総数	1,028	5,918	1,036	5,675

資料 厚生労働省「平成29年 患者調査」

図18 傷病分類別受療率(人口10万対) 入院



(3) 平均在院日数・病床利用率

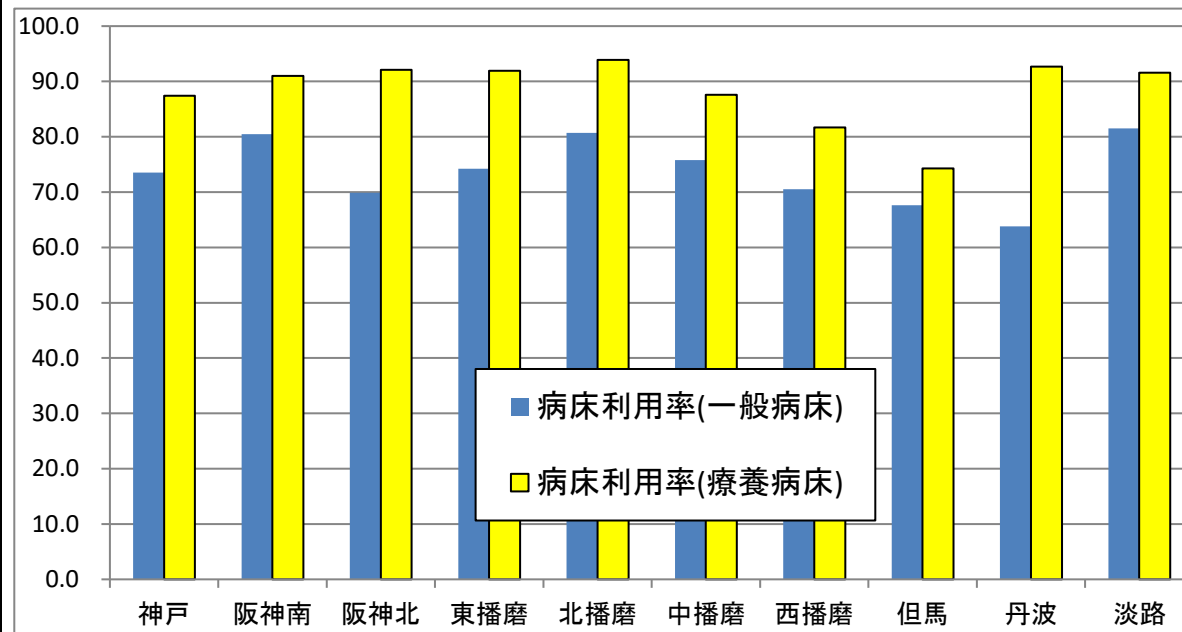
病床別の平均在院日数は、一般病床が 15.5 日（平成 23 年 16.7 日）、療養病床が 149.9 日（168.7 日）、精神病床が 264.2（322.8 日）であり、いずれも短縮化傾向にある。

表17 圏域別 病床別病床利用率・平均在院日数

圏域	全病床		一般病床		療養病床		精神病床		結核病床		感染症病床	
	病床利用率	平均在院日数	病床利用率	平均在院日数	病床利用率	平均在院日数	病床利用率	平均在院日数	病床利用率	平均在院日数	病床利用率	平均在院日数
	(%)	(日)	(%)	(日)	(%)	(日)	(%)	(日)	(%)	(日)	(%)	(日)
全国	80.1	28.5	75.2	16.2	88.2	152.2	86.2	269.9	34.5	66.3	3.2	7.8
全 県	80.4	26.5	74.7	15.5	89.8	149.9	88.4	264.2	52.4	77.3	0.1	5.3
神戸	77.7	24.0	73.5	15.3	87.4	147.5	83.9	213.4	57.8	65.3	0.4	5.3
阪神南	83.4	21.7	80.5	14.5	91.0	139.4						
阪神北	81.0	33.0	69.9	15.5	92.1	193.6						
東播磨	80.9	24.5	74.2	14.1	91.9	160.9						
北播磨	85.8	37.8	80.7	22.2	93.9	181.5						
中播磨	80.3	24.0	75.8	14.3	87.6	119.2						
西播磨	78.8	38.1	70.5	20.6	81.7	156.0						
但馬	72.2	26.5	67.6	15.7	74.3	90.2						
丹波	79.3	35.5	63.8	15.0	92.7	237.7						
淡路	86.7	39.7	81.5	16.9	91.6	101.6						

資料 厚生労働省「平成28年 病院報告」

図20 病床利用率



(3) 平均在院日数・病床利用率

病床別の平均在院日数は、一般病床が 15.6 日（平成 28 年 15.5 日）、療養病床が 136.4 日（平成 28 年 149.9 日）、精神病床が 178.9（平成 28 年 264.2 日）であり、いずれも短縮化傾向にある。

表17 圏域別 病床別病床利用率・平均在院日数

圏域	全病床		一般病床		療養病床		精神病床		結核病床		感染症病床	
	病床利用率	平均在院日数	病床利用率	平均在院日数	病床利用率	平均在院日数	病床利用率	平均在院日数	病床利用率	平均在院日数	病床利用率	平均在院日数
	(%)	(日)	(%)	(日)	(%)	(日)	(%)	(日)	(%)	(日)	(%)	(日)
全国	80.5	27.3	76.5	16.0	87.3	135.9	82.7	196.8	33.1	64.6	3.8	8.5
全 県	80.7	25.6	76.2	15.6	89.1	136.4	88.6	178.9	47.6	74.8	0.8	7.6
神戸	78.2	23.2	74.5	15.1	87.1	127.7	90.8	120.9	50.1	58.8	3.1	16.3
阪神	82.9	25.1	78.1	15.5	91.9	151.1						
東播磨	80.3	22.8	74.0	13.4	90.5	137.1						
北播磨	86.8	35.5	84.0	21.2	93.6	155.2						
播磨姫路	79.1	27.0	75.6	16.4	81.1	112.1						
但馬	73.1	28.0	71.5	17.3	69.1	114.7						
丹波	79.2	35.3	64.3	14.1	90.8	229.4						
淡路	88.2	40.3	84.3	17.4	94.0	112.3						

資料 厚生労働省「令和元年 病院報告」

図20 病床利用率

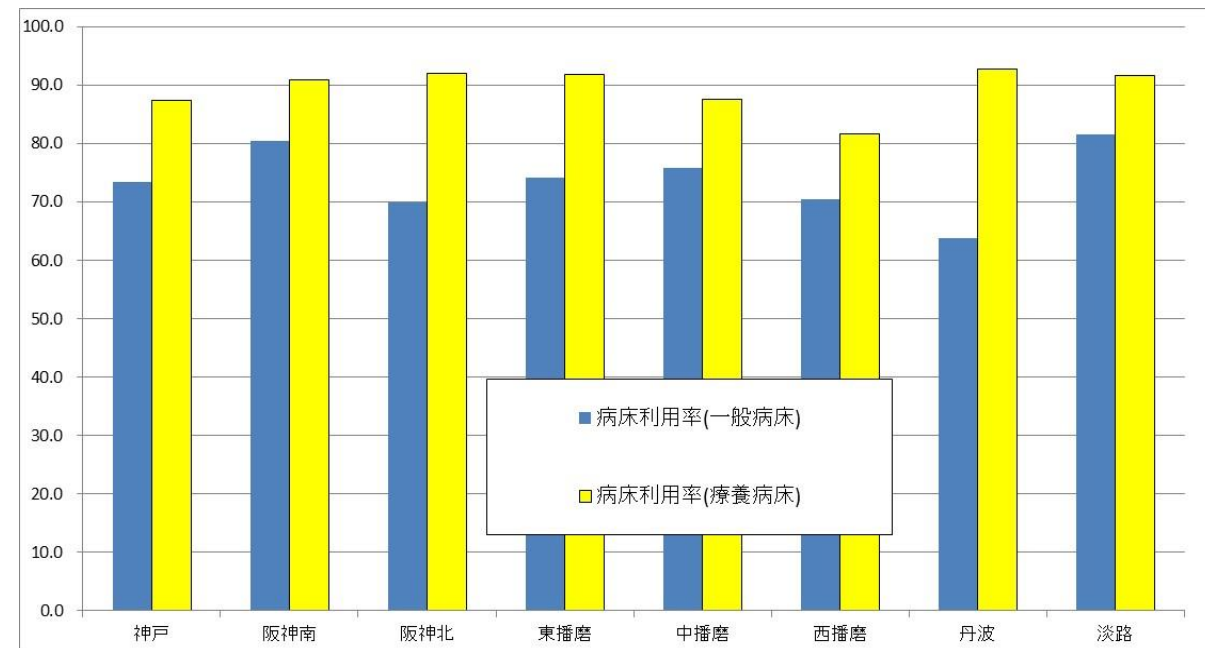
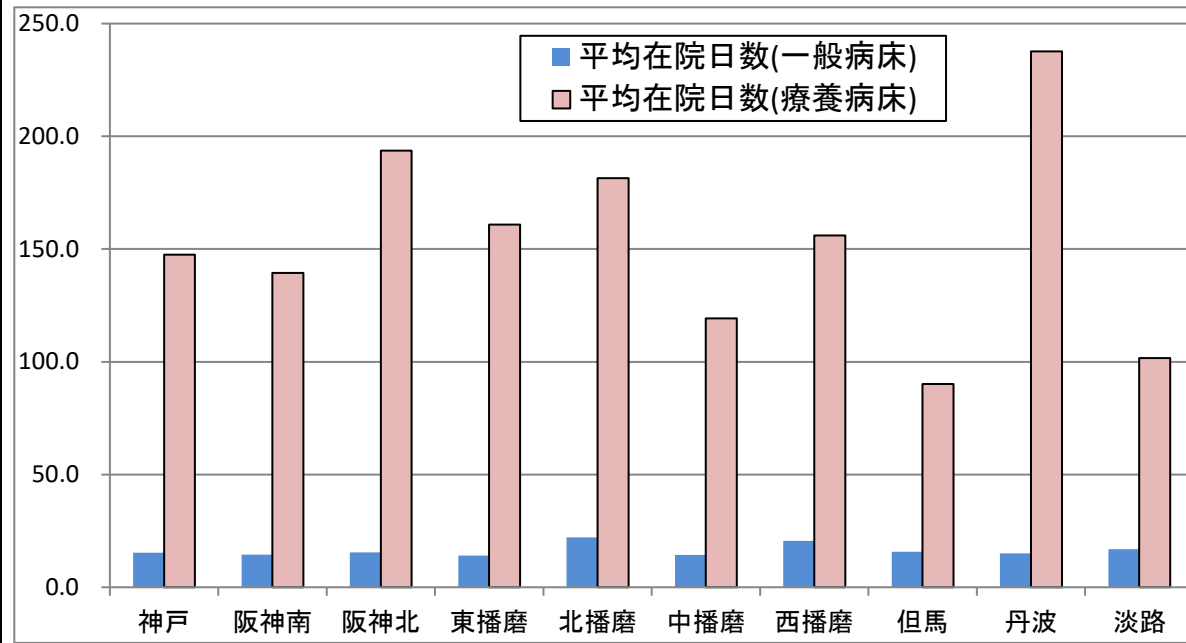


図21 平均在院日数



(4) 標榜科別病院延べ数

標榜科別病院延べ数は多い方から、内科・リハビリテーション科・外科・整形外科・放射線科・消化器内科・循環器内科の順となっている。

表18 標榜科別病院(精神科病院及び一般病院)延べ数

		内科	呼吸器内科	呼吸器外科	消化器内科	消化器外科	循環器内科	心臓血管外科	外科	精神科	脳神経外科	神経内科	整形外科
兵庫県	病院数	310	95	29	165	72	162	38	238	105	115	84	238
	人口10万人対	5.6	1.7	0.5	3.0	1.3	2.9	0.7	4.3	1.9	2.1	1.5	4.3
全国		5.9	2.0	0.6	2.9	0.9	2.9	0.8	3.8	2.1	2.0	1.9	3.9

		小児科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	皮膚科	泌尿器科	リハビリテーション科	放射線科	麻酔科	歯科	歯科口腔外科
兵庫県	病院数	106	50	116	81	121	110	244	207	125	49	40
	人口10万人対	1.9	0.9	2.1	1.5	2.2	2.0	4.4	3.7	2.2	0.9	0.7
全国		2.2	1.0	1.9	1.6	2.4	2.2	4.0	2.6	2.1	1.0	0.7

資料 厚生労働省「平成28年医療施設調査」

図22 標榜科別病院数 (人口10万対)

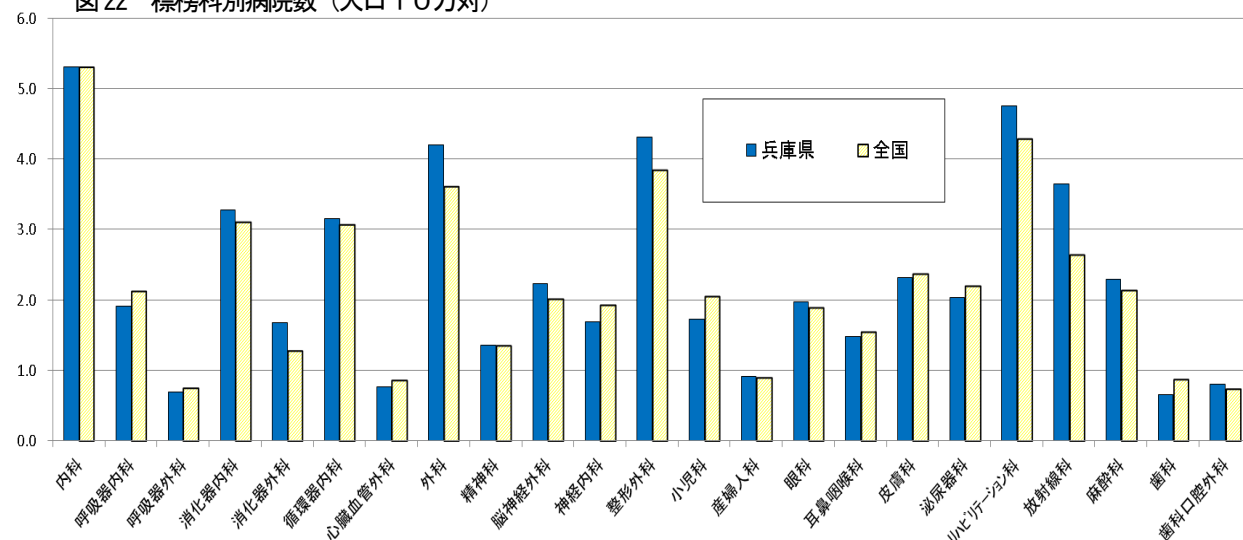
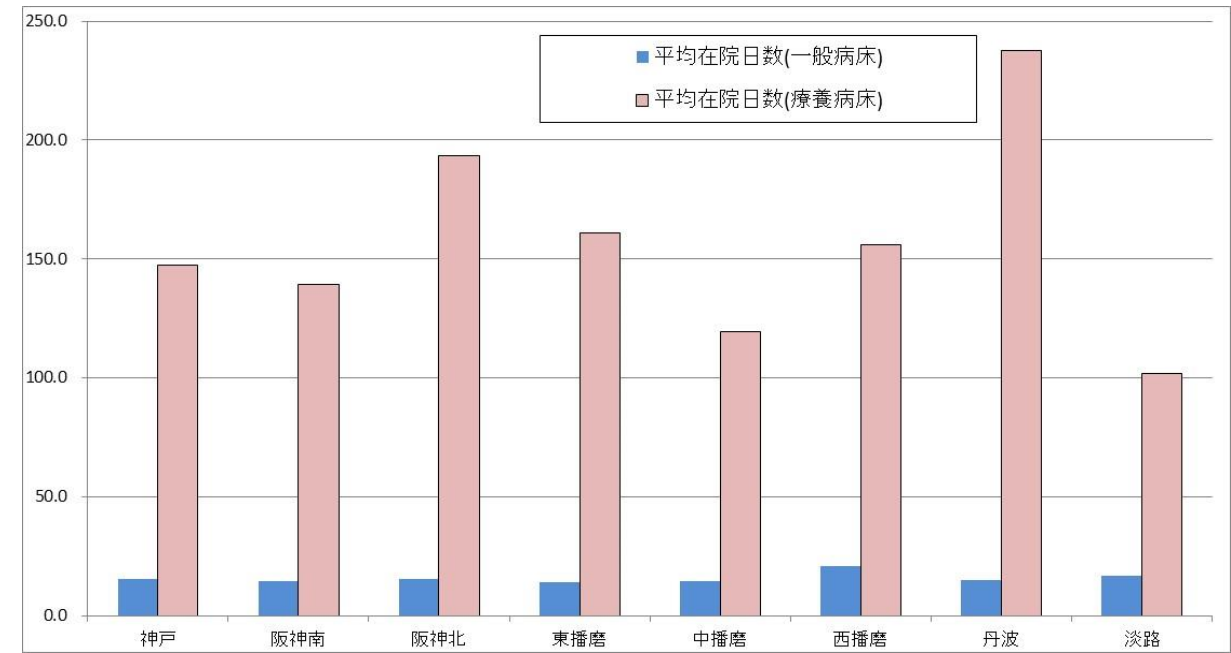


図21 平均在院日数



(4) 標榜科別病院延べ数

(同左)

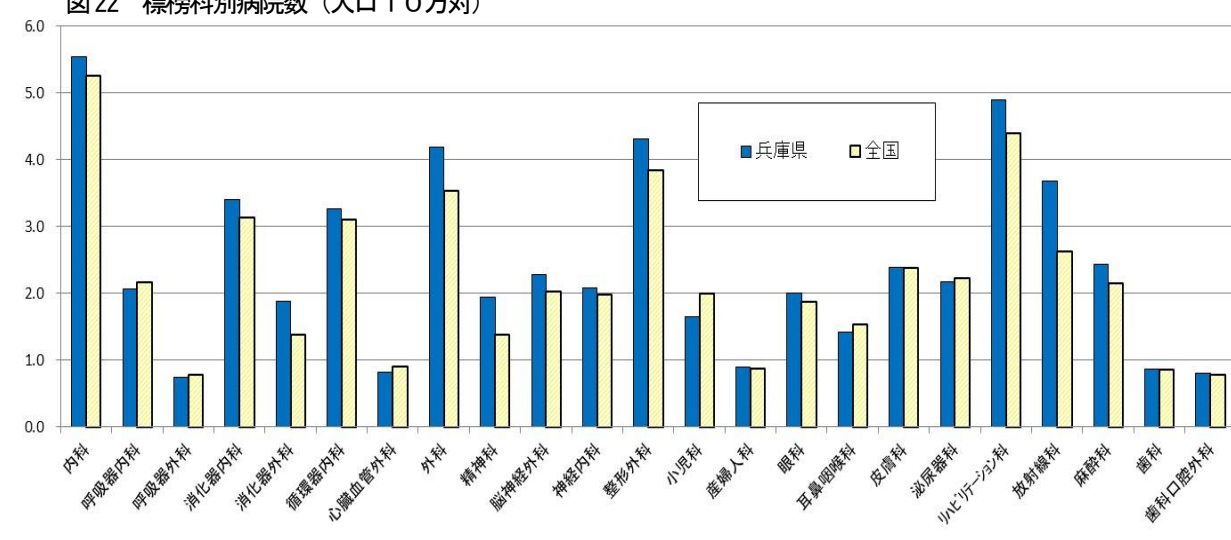
表18 標榜科別病院(精神科病院及び一般病院)延べ数

		内科	呼吸器内科	呼吸器外科	消化器内科	消化器外科	循環器内科	心臓血管外科	外科	精神科	脳神経外科	神経内科	整形外科
兵庫県	病院数	309	115	41	190	105	182	46	233	108	127	116	240
	人口10万人対	5.5	2.1	0.7	3.4	1.9	3.3	0.8	4.2	1.9	2.3	2.1	4.3
全国		5.3	2.2	0.8	3.1	1.4	3.1	0.9	3.5	1.4	2.0	2.0	3.8

		小児科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	皮膚科	泌尿器科	リハビリテーション科	放射線科	麻酔科	歯科	歯科口腔外科
兵庫県	病院数	92	50	112	79	133	121	273	205	136	48	45
	人口10万人対	1.7	0.9	2.0	1.4	2.4	2.2	4.9	3.7	2.4	0.9	0.8
全国		2.0	0.9	1.9	1.5	2.4	2.2	4.4	2.6	2.2	0.9	0.8

資料 厚生労働省「令和元年医療施設調査」

図22 標榜科別病院数 (人口10万対)



(5) 医師

医師数は徐々に増加しているが、人口10万対の医師数は、全国に比べて低い。

表19 医師数の推移

Table with 10 columns (Year) and 3 rows (Hyogo Prefecture, Population 100k, National Average).

資料 厚生労働省H28「医師・歯科医師・薬剤師調査」

表20 主な診療科別医師数(平成28年)

Table with 13 columns (Specialty) and 3 rows (Hyogo Prefecture, Population 100k, National Average).

Table with 13 columns (Specialty) and 3 rows (Hyogo Prefecture, Population 100k, National Average).

資料 厚生労働省H28「医師・歯科医師・薬剤師調査」

(6) 歯科医師

歯科医師数は、平成26年まで徐々に増加してきたが、人口10万対で全国と比較すると、下回っている。診療科別に見ても、全ての診療科で全国値を下回っている。

表21 歯科医師数の推移

Table with 10 columns (Year) and 3 rows (Hyogo Prefecture, Population 100k, National Average).

資料 厚生労働省H28「医師・歯科医師・薬剤師調査」

表22 主な診療科別歯科医師数(平成28年)

Table with 5 columns (Specialty) and 3 rows (Hyogo Prefecture, Population 100k, National Average).

資料 厚生労働省H28「医師・歯科医師・薬剤師調査」

(7) 薬剤師

薬剤師数は年々増加しており、人口10万対で全国と比較すると上回っている。

表23 薬剤師数の推移

Table with 10 columns (Year) and 3 rows (Hyogo Prefecture, Population 100k, National Average).

資料 厚生労働省H28「医師・歯科医師・薬剤師調査」

(5) 医師

(同左)

表19 医師数の推移

Table with 10 columns (Year) and 3 rows (Hyogo Prefecture, Population 100k, National Average).

資料 厚生労働省H30「医師・歯科医師・薬剤師統計」

表20 主な診療科別医師数(平成30年)

Table with 13 columns (Specialty) and 3 rows (Hyogo Prefecture, Population 100k, National Average).

Table with 13 columns (Specialty) and 3 rows (Hyogo Prefecture, Population 100k, National Average).

資料 厚生労働省H30「医師・歯科医師・薬剤師統計」

(6) 歯科医師

(同左)

表21 歯科医師数の推移

Table with 10 columns (Year) and 3 rows (Hyogo Prefecture, Population 100k, National Average).

資料 厚生労働省H30「医師・歯科医師・薬剤師統計」

表22 主な診療科別歯科医師数(平成30年)

Table with 5 columns (Specialty) and 3 rows (Hyogo Prefecture, Population 100k, National Average).

資料 厚生労働省H30「医師・歯科医師・薬剤師統計」

(7) 薬剤師

(同左)

表23 薬剤師数の推移

Table with 10 columns (Year) and 3 rows (Hyogo Prefecture, Population 100k, National Average).

資料 厚生労働省H30「医師・歯科医師・薬剤師統計」